京都北山撮影紀行 ⑦

山野逍遙（さんやしょうよう）

―― 夜と朝の風景 ――

撮影　北川裕久

夜景・杉の旋律（山幸橋）

朝もやに包まれて（大悲山・寺谷）

夜の杉木立は　シルエットとなって
凛乎とした旋律を描く
　またたく星達は
明日への軌跡を夜空に描き
神秘的な一夜のドラマをつくる

やがて東の空が白み始めると
　どこからともなく
鳥達の目覚めの鳴き声が聞こえる
　そして　辺りの山々は
黎明の静けさの中で
　　　　夜との別れを告げる
私は胸一杯　深呼吸をくり返す
この爽やかな朝を
いつまでも忘れないために

雲海（ダンノ峠）

●目次

新ハイキング別冊 関西の山
'92年11月晩秋 7号

表紙：松田敏男「天狗奥庭より望む天狗岳」（八ガ岳）

●作者プロフィール●1945年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳画展、山岳画の個展多数開催。（京都平安画廊、南アルプス仙水小屋、他）京都山と野に親しむ会代表。日本山岳会会員。一等三角点研究会員

●グラビア
京都北山撮影紀行⑦　山野逍遥「夜と朝の風景」……北川　裕久　2
随想（山のエッセイ）
リングワンデリング……慶佐次盛一　6
忘れた弁当……松枝　澄男　7
イタドリ……山岸　智子　8
紀行
国見岳……稲垣いつを　9
雲海の白髪岳……酒井　賢治　12
（連載）日本霊山紀行5　金峰山……浅野　孝一　16
銚子ケ口……松田　敏男　19
太郎坊山と雪野山……多摩　雪雄　24
安土山（安土城跡）……遊津　米男　28
特集
連載エッセイ・京都北山ほんまのはなし……北川　裕久　33
第1話　プロローグ……33
第2話　初めての単独行……33
第3話　道草登山のすすめ……36
第4話　思い出深い山行とは……37
第5話　北山の魅力は12月にある……38
京都北山・そぶ酒ぎ痛快山行記［六］
伊賀谷右俣から八丁平・峰床山……京都北山グループ　39
●文学歴史探訪ハイク⑦　紅葉の多武峰・談山神社……松永　憲一　42
コースガイド
1 高野町石道（慈尊院から丹生都比売神社）……児嶋　弘幸　48
2 西お多福山……安田　崇弘　50
3 大江山……濱田　啓司　52
4 天和山と高城山……内田　嘉弘　54
●アウトドア・ライフ入門⑦
秋の木の実……二名　良日　22
●たのしい山歩き⑦「白い尾瀬」……松下　満　46
沿線ハイキングガイド……56
せせらぎ……60
サービスチェーン……60
SHC関西山行計画……62
バス時刻（京都北山）……66
編集後記・広告案内……68

巻頭言

この雑誌も、どうにか一年間6号の発行を終え、この第7号より二年目に入りました。「新ハイキングクラブ関西」へご入会頂いた方も、発足一年で1000名近くになり、思いのほか強い反響に驚いています。

毎回の山行例会もたくさんの会員の方々にご参加頂き、バスをチャーターしたこともありました。いずれの山行も楽しく、無事故で、和やかなふれあいに感謝しています。

昨年、創刊のあいさつで、述べ、願っていたことが一年目から着実に実現しているようでうれしいかぎりです。もっとバラエティーに富んだ、多くの山行が組めれば良かったのですが、このことは今後の期待としてお許し下さい。

山とハイキングの情報誌としてスタートしましたが、毎号の編集をしていますと、山を歩くという単純な行為の中にも、自然や環境などについていろいろと考えさせられるテーマが内蔵しているように感じます。今後はそれらに関する記事も工夫して入れたいのですが、このささやかな雑誌でどこまで可能なのか、しばらく考えてみたいと思います。当面は「随想」や「せせらぎ」欄の活用を、読者の方にお願い致します。

新ハイキング関西（代表）村田智俊

自然を歩く仲間です。

ボーナスセール開催　11/10TUE⇒12/31THU

OD 845　¥11,000
（容量：45ℓ/カラー：チャコール、レッド、ブルー、グリーン、シルバー、バーガンディ、ブラウン）
OD BOXスタッフが「数々の山で体験したノウハウを思いっきりつめ込んだ、オリジナルザック。基本コンセプトは、実際に背負ったときの「使いやすさ」。S字にカーブしたショルダーパッドは背負いやすく、ジャストフィット。2泊3日ぐらいの山行まで使用できる多目的ザックです。

アルコス　コルチナライト　¥33,000
（サイズ：22.5～28cm/カラー：ダークブラウン/ソール張り替え可）
90年代の軽量登山靴の代表作。登る時にはカカトについたベロがアキレス腱をしっかりサポートします。

ご来店の際、新ハイキングクラブ・メンバーズカードをご提示の方には、OD BOXメンバーズ価格でご提供！

※この他、OD BOXには一流メーカーの登山ウェア、登山靴、ザックなどが勢揃い。皆様のご来店をお待ちしております。

遊　衣
休　食
CAMP　住
自然で暮らす。

OD BOX

アウトドアライフのトータルショップ
OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ素敵生活」
自分の好きなことで自然とふれあう。「登山」の楽しさを通して、もっと自然と仲良くしたい。OD BOXはそんなハートを持つ、一年中アウトドアのお店です。

通信販売でもお求めになれます。お気軽にお問い合せください。　0120-36-1661（担当：えびな）

4F 自転車・トレーニングウェア&ランニング用品
3F テント・シュラフ・ザック・キャンプ用品
2F 登山靴・バッグ・目玉商品コーナー
1F 登山ウェア&アウトドアウェア
B1 ダイビング用品・旅行カウンター

OD BOX大阪店
〒542 大阪市中央区西心斎橋2-10-34
TEL 06(212)9668（定休日/第3水曜日）
営業時間/AM10:30～PM8:00
日・祝日AM10:30～PM7:00

リングワンデリング

慶佐次盛一

今年の冬、湖南の大福山（596㍍）に登る途中でリングワンデリングを経験した。雪の雑木の中で、わずか10分ばかりの小さなリングワンデリングだったが、雪の上にしっかりと残した自分自身の踏み跡に遭遇した時は、思わず吹き出すとともに背筋が寒くなる思いもした。

私のリングワンデリングはこれが初めてではない。高校時代に六甲山でも経験しているし、湖南の大神山、奥美濃の小津権現山でも経験している。

リングワンデリングとは視界のない山などで方向を見失い、同じ個所をリング状に彷徨することである。雪の上などに残した自分の足跡を先行者の足跡だと思い込んで、知らないうちに際限のないリング状の彷徨を繰り返し、ついには疲労困憊して死に至ることもあるという。

高校時代の六甲山のリングワンデリングの場所はもう忘れてしまったが、確か縦走路から分岐した下山道で経験したものと思う。柿木の茂る夏の季節で、途中で休憩して歩きだしたまではよかったのだが、しばらくしてまた元の休憩場所まで戻った時にはがく然としてしまった。キツネやタヌキに騙されて、同じ所をぐるぐると歩かされたという話はよく聞かされたが、正にそんな思いであった。しかも単独行であり、リングワンデリングの知識もなかった少年の頃の私にとっては初体験であり、恐怖感すら覚えたのであった。

湖南大神山のリングワンデリングは、正にキツネに騙されたというオチまでついていたものであった。仲間たちと大神山に登って、さあどこへ下ろうかということになり、天狗岩から新免へ下ろうということになった。

大神山から東海自然歩道のコースに下る。道の露岩に陶製の白狐が祀られていた。東海自然歩道から天狗岩へのコースに入る。道は細く次第に湿地帯となる。おかしいとは思ったが、この日は湖南の山には詳しいというお方の先導だったから、私はただその後をついて行けばよかった。しかし途中で道は完全になくなり、ヤブこぎが続く。やっと広い道に飛び出して、これで天狗岩への正式のルートに乗ったのかと安心した。

ところがである。しばらく歩いていると、先程の白狐が祀られた露岩の前に出てびっくりした。リングワンデリングである。露岩の上に祀られている陶製の小さな白狐が、無気味だった。キツネに騙されたのだ。いやそうじゃない、キツネが山に未熟な私をさとしてくれたのであろう。

奥美濃の小津権現山のリングワンデリングは壮絶だった。霧の漂う樹林の中で、こんなこともあろうかとこまめに赤布を残しながら登った。ところが頂きが近づくにつれて山頂という魔物の虜となって根曲り竹の猛ヤブの中を赤布を残すことも忘れて必死で登った。

汗して手に入れた山頂の至福感は筆舌に尽くし難いが、ヤブ山での万全の下山工作をしなかったのが後のたたりとなってしまった。

さあ下山しようということになったが、周りはチシマ笹の密生とおまけに濃い霧に閉ざされて視界は全くなかった。こんな悪条件下でのヤブ山の下りは難しい。登りは高い所を目指せばいいが、下りは勢いがつくからともすればルートから離れがちになる。果たせるかな、私達は完全にルートから離れてしまった。とにかく主稜線を目がけて高みに登ってみたが、これがまたご丁寧にも小津権現山の頂きに舞い戻っていたのだった。

猛ヤブをこぎながら約1時間のリングワンデリング。実に情けない話だったが、さらに下山をやり直して残した赤布を見つけるまでに1時間を要し、都合約2時間のヤブ山彷徨はもう体力の限界に近いものだった。

よく考えてみると、リングワンデリングをした時は、やはり登山に対する慎重さを欠いていたように思う。いや、山だけでなく人生においても、心の隙や指針を見失った時には、同じリングワンデリングを繰り返しているのではなかろうか。

随想（山のエッセイ）

忘れた弁当

松枝　澄男

台風10号のため、コース変更を余儀なくされた私は、一日も早く下山して、信濃大町の旅館に落ち着いた。

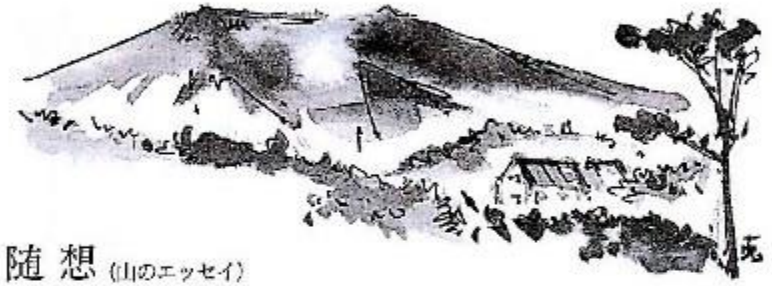
8月12日の朝、テレビのスイッチを入れると、「日航のジャンボ機が御巣鷹山に墜落して七年目になる今日……」というニュースが流れてきた。

七年前の同じ月、平の小屋に泊まっていた私たち三人は、朝の5時30分頃朝食をとったが、6時に船が出ると言うので、慌てて渡し場に行き、船に乗った。15分ほどで下船した私たちは、3時間近く歩き、9時頃、奥黒部ヒュッテに着いた。水を補給しようとザックを開けると同時に、Kさんと私が「弁当を忘れた!!」と叫んだ。

時既に遅し、少々の食料はあるものの、小屋泊まりの私たちにしては三千円の損よりも、弁当のほうが大事である。しかたなくヒュッテに御飯が残っている、ということでオニギリを二個ずつ作ってもらった。いよいよ読売新道への登りである。

えんえんと続く登りと、木の根っこに苦労した私たちは、赤牛岳の近くで昼食をとったが、柔らかく冷たい御飯で握ったオニギリは、何ともまずく、私は一個しか食べなかった。

水もなくなった私たちは水晶



随想（山のエッセイ）

岳のところで雪渓をかき分け、真っ白な部分を食べた。

平の小屋を出て、11時間を要し、水晶小屋にどうにか17時頃着いた。泊まり客は10人ぐらいしかいなかったが、小さな小屋での夕食は美味しくて、今だに忘れられない。

読売新道を歩いて感じたのは人の少なさで、平の渡し場で会った人と、赤牛岳の頂上で話した二人だけであった。

人気のあるコースと比べると考えられないような静けさだ。難しいところはないが、行程の長さと水場がないのに加えて、1400㍍の標高差が敬遠されるのかもしれない。

私はニュースを聞きながら、御巣鷹の墜落事故と共に、忘れた弁当のことが、思い出されてきたのである。

イタドリ

山岸　智子

春、山を歩いていると谷沿いなどにイタドリがよく生えている。あのスッパイのがこんなに美味しいものとは知らなかった。

ポンと折ってスーッと皮をむき、かじると渇いた喉をいやしてくれる。煮て食べられると聞いたのでアゲといっしょに煮たらドロドロに溶けてしまい、わずかに残ったあの強い酸味でとても食べられない。友達に聞いたら薄く刻んでサラダで食べるそうだ。私は酸味に弱いのでサラダではとても食べられない。もう煮て食べることは諦めていたら、粕漬けにしたものをご馳走になった。あの酸味は、わずかに残ってはいるものの、ほとんど感じないから美味しい。粕漬けの方法を聞いたら、なんとも手間がかかる。雑な私にはとても出来そうにない。

後日、山で出会ったご夫婦にイタドリの料理の仕方を教わった。

まず、丁寧に皮をむき、一度塩漬けにする。それをよく塩抜きしてから、煮たり炒めたりするのだと。酸味は塩抜きの時いっしょに抜けるので、普通の野菜として使えばよい。と教えられて「今日もこんなに採って来た」と、リュックを見せてくれた。

では、もう一度挑戦とばかり、とうのたちかけたイタドリをやっと探して採って来た。半信半疑で教えられた通りにすると、アラ不思議。あんなに酸っぱかったのが何故どこへやら。煮て溶けたのが何故かそのまま残り、お惣菜として一役もふた役もしてくれた。アゲと煮てよし、キンピラごぼうのように炒めてもよし、コリコリとした歯ごたえに満足しつつ、あの皮むきのときの肩こりはどこへやら。

今は、あの時のご夫婦に感謝しつつ、来年もイタドリを採りに行こうと楽しみにしている。

国見尾根から

国見岳（くにみだけ）

稲垣　いつを

鈴鹿

日本で最も多い苗字は何だろうとつぶやいたら、とっくに御臨終と思っていたのんべえが、「それは大井（おおい）だ」と突然叫んだ。最も多い山名はと畳み掛けたら、「沢山（たくさん）だ」と答えやがった。酔っ払いの割には見上げた奴だ。

苗字の方はしかるべき所にお伺いすれば、即座に分かることだろうが、大して知りたくもない。しかし山名の方は知りたい。誰か調べた人がいるだろうか。もしそんな人がいたら、ノーベル努力賞ものだ。「○○富士」、これはかなり多そうだ。しかしオリジナリティーに欠ける。愛宕（あたご）、釈迦（しゃか）、天狗（てんぐ）、竜（りゅう）なども何となく多そう。ところで、「国見岳」はどうだろう。九州の屋根と称される熊本、宮崎両県境のそれは特に有名だが、この山名も結構多そうな気がする。

「国見」とは、「天皇や地方の首長が高い所から国の地勢や人民の生活状態などを望み見ること」（小学館・『日本国語大辞典』）とある。また「本来は、春の農耕予祝儀礼としての土地ほめ、国土讃美であったが、のちには儀礼的意味が薄れ、一般の人の行楽にかわっていった」ともある。更に奈良県葛城郡では、「山頂で展望のきく所」のことを「国見」と言うそうである。こうなると、山名最多賞まちがいなしということになる。

8時30分近鉄湯の山線終点の湯の山温泉駅にS氏とO氏を迎え、走行距離15万キロになろうとする愛車をだましだまし、鈴鹿スカイラインに入れる。数分で左手に牧場をみる。

国見岳山頂にて

「牧場」を「牛馬などを放牧出来るように設備した土地」と定義するならば、ここは決して牧場ではない。しかし、数頭の馬が飼われてはいる。「熊、見える？」と一応聞いてはみるが車は止めない。我が愛車は坂道発進を極端にいやがるのだ。間もなく道はヘアピンカーブにさしかかるが、その左右が「県井戸キャンプ場」である。国見岳へのメインルートはここに始まるわけだが、近年このルートをと

る人はあまりいない。我々も更に車を進め、御在所岳裏道コースへの分岐点、蒼滝橋に向かう。橋の手前に小さな駐車場があるが、既に満車。仕方がないから、橋を渡り、蒼滝トンネルを抜け、その先の駐車場まで登る。湯の山温泉駅から約15分だ。

今日から12月だというのに全くの暖冬。空は青空、国見には絶好の日だ。トンネルをくぐり直し、すぐ左手の御在所岳裏道コースに入る。工事用に作られた幅広い坂道を登り詰めると正面直下に大堰堤。この辺り、裏道コースの中でも最高の渓谷美を誇っていた所だが、堰堤工事の為に、その姿は一変し、絶好のテント場も消えてしまった。作るということは破壊することなのだということを、ここに来る度に痛感する。

9時10分、日向小屋前通過。9時30分、藤内小屋に着く。途中、岩かげに潜むあまごを数匹みる。この季節には珍しいことだ。5分の小休止の後出発。小屋の右裏手で裏道コースを捨て、右手の谷を渡る。愛知岳連の小屋を右にみて北へ。15分程で、石仏の点在する一角を過ぎ、水量豊かな流れに出る。鳥井戸道との出合いである。流れを横切りそのまま北へ進めば、腰越峠を経て朝明渓谷。流れに沿って西に登れば、国見尾根への道である。10分程で左前方に数条の滝をみる。無理をせず右手急登の巻き道をとるが、その登り口に国見不動（岳不動）の祠がある。

前回ここを通ったのは、今年の7月7日、七夕の日だった。7～8人の男性が、祠の前で小さな酒宴をはっていた。邪魔にならないようにそっとそこを通過しようとしたが、既に御神酒でほろ酔いの人たちにつかまった。「まあ一杯やってくれ。今日は年一回の不動さんの祭礼や」「まあまあ、よう来てくれた。これも何かの縁や」「遠慮せんと、さあさ、わしらは地元のもんや」と、口々に酒を勧めてくれる。こんなに勧めてくれるのに、こんなに歓待してくれるのに、「実はその、あの……」なんて断われない。確かにこれも何かの縁や、だから人生は面白いんやと、S氏と二人、図々しくもそこに座り込んでしまったのだった。

今日はあの時と打って変わって誰もいない。滝の上に出ると谷は二つに分かれている。少し戻るように左手に下り、左の谷に入る。程なく谷は伏流と消え、ガレ場の急登につながる。登るにつれて浮石多く、道が次第に細くなる。右手の灌木帯につかず離れず、20分程で国見尾根稜線に出る。「右、国見岳」の朽ちかけた標識がある。稜線延長上に「ゆるぎ岩」の頭が見えている。この尾根道、ちょっぴり痩せていて、積雪時には、結構スリルがあって楽しい。春には、石楠花、バイカオーレン、イワカガミ等でまた楽しい。20分程でゆるぎ岩に着く。10時50分だ。自分より細い岩の上で一匹の犬が腹ばいになって身動きできずにいる、といった風なバランスの妙。それがゆるぎ岩だ。それを真下から見上げながら10分程休むが、12月の空気はさすがに冷たく、お日さまが隠れると結構寒い。10分程で県境尾根にぶつかる。左、国見峠、御在所岳。右、国見岳、根の平峠。国見岳（1055m）まで残り2分。

頂上着11時5分。大きな石が数個組み合わさって頂上らしい雰囲気はあるが、少々狭い。石の上に登らないことには今ひとつ展望がままならない。その石には先客がいるし、国見の儀式を行なうには、すぐ西にある「石門」の方がよさそうだ。ということで、来た道を少し戻って、そちらに向かう。1分もかからない近さだが案外見落す人が多い。石門の屋上は絶好の休憩場。ゆるぎ石といい、この石門といい、自然というのは、とんでもないことをなんなくやってのけてそしてすましている、とんでもない奴だ。そのとんでもない自然に感謝をして、ヤッケを着こんで胡座をかいて、いよいよお楽しみのランチタイムだ。

こんな時、大の男が三人、いったい何を話すのか。まず一頻り周囲の風景に賛辞を送る。儀礼としての「土地ぼめ」である。しかし最近は、この「土地ぼめ」がぼやきに変わってしまうことが多い。でも今日は、素直な気持ちでほめることができる。これと平行してお湯をわかし、紅茶を入れる。たっぷりとアルコールをそそぎ、「うまい」とひと言。概してあまりしゃべらない。特に仕事の話はほとんどしない。どこそこの何が美味だったとか、何々はこうして食うのが一番とか、次はどこへ登ろうとか、温泉があるといいとか、煙草を何回やめたとか、話題は豊富だが中身がなくて、そのうちに食べるものがなくなってきて、ぼつぼつ行こうかと腰をあげる。この間だいたい50分である。

帰路は、国見峠から御在所岳に回り、カモシカセンター内で催されている「鈴鹿山系の石仏」という写真展を見て、御在所岳東尾根ピークから富士見台を経て、中道コースを下る。富士見台、13時15分。キレット、13時45分。負れ石、14時10分。御在所岳から下るには、このコースが最も眺めがいい。こんなに晴れていても、昔のように見通しがきかなくなったなと思う以外は、掛け値なしで「土地ぼめ」の出来るいいコースだ。正面はるかに少しぼやけた海を見やりながら、三人三様、単独行に徹し黙々と下る。心の中では、真面目に土地ぼめをやっているのだろうか。御在所山の家、14時35分着。休憩はとらず、鈴鹿スカイライン料金所、14時40分。駐車場まであと10分だ。

まだ日が高い。このまま一日を終えるのももったいない。下りは坂道発進の心配もいらない。「熊、見ろう」今度は本気で誘ってみることにしよう。

（平成3年12月1日歩く）

〈コースタイム〉

近鉄湯の山温泉駅（車15分）鈴鹿スカイライン・蒼滝大橋（35分）藤内小屋（35分）岳不動（25分）国見尾根（20分）ゆるぎ岩（15分）県境尾根（3分）国見岳（20分）国見峠（25分）御在所岳カモシカセンター（10分）御在所岳東ピーク（30分）、キレット（20分）負れ石（25分）御在所山の家・鈴鹿スカイライン（15分）蒼滝大橋

〈地形図〉昭文社＝「45御在所・鎌ケ岳」

茶　通信販売
くつろぎとやすらぎのティタイムには
やっぱりお茶!! ティパックが便利です。
山へお持ちください。ご家庭でもどうぞ。
1、煎茶 3g
2、ほうじ茶 3g
3、玄米茶 4g
4、ウーロン茶 4g
全品1袋毎に真空包装
どれでも100P入
100P 2500円を2000円 送料450円
200P 5000円を4000円 〃 300円
500P 7500円を6000円 〃 無料
○サービスチェーンの方に…
茶 専門店 じゅっぽうえん

孤高の名峰

雲海の白髭岳

酒井賢治

台高

大峰山脈と台高山脈のほぼ中間に座する白髭岳は、台高孤高の名峰である。

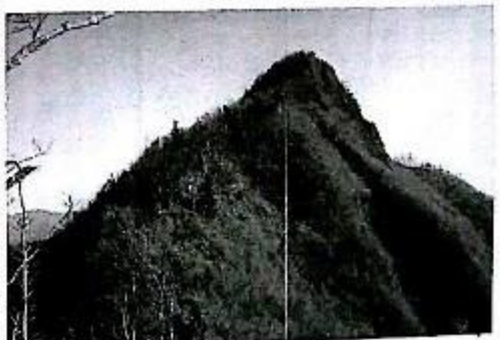
大峰側・大普賢岳や山上ヶ岳から見下ろす鋭角的な山容、台高側・薊岳や白屋岳から見る青い鋸歯状のシルエット。どれを見ても山好きの登行欲をかきたてることこのうえない。

この山を大峰、台高のいずれの山域に入れるべきなのか、山のガイドマップなどもいろいろである。しかし、山頂東側のパノラマを見れば明白で台高山脈主稜赤嵓山から西へ派生する支稜は高塚、戸倉山、登尾と続き南へ向きをかえ高尾山、大鯛山と続き、白髭岳東尾根へと連なり西側吉野川に没している。一方、大峰山脈とは吉野川の深い切れ込みで山稜は寸断されており、これは明らかに台高の山である。そういえば大峰と台高の二つの山域が接続しているのは大普賢岳東部と伯母峰を結ぶ通所、笙の窟尾根だけであるのは興味深い。

2年前の11月初め、私は一人この山に登ったがS社旧版のガイドマップのコース波線に拘ったため途中で道に迷い、小白髭岳北部の稜線に出るまでに時間をくい、頂上に登ったものの精神的な苛立ち、体力の消耗、さらに時間的余裕もなく、満足せず下山した苦い経験がある。

さて、昨年再度、白髭岳登頂をこころみ、今回は雲海というおまけつきで大いに満足して下山したのでここに報告する。

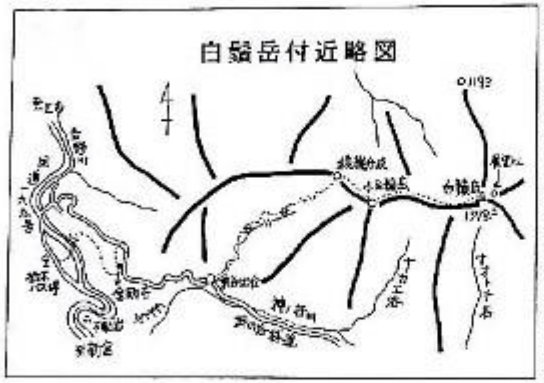
白髭岳ピーク



12月7日、午前4時30分起床、奈良県天気予報を電話できく。晴れ、但し霧が深いとのこと。5時15分次男運転のマイカーで家を出る。予報通り、阪奈道路、国道24号線ともに深い霧。息子に安全運転で行こうと促し一路南へ。一時榛原あたりで霧が晴れ空に星を見上げる。しかし、吉野川に沿った谷間は再び霧にとざされている。杉の湯で雑子猿ちを兼ねて休憩をとり、柏木を目指す。柏木の手前で吉野川を渡り神の谷林道を走り、東谷出合いに7時ちょうどに到着。

（バスの場合、柏木で下車し国道に出て吉野川にかかる鉄の吊り橋を渡り、右へ折れ集落を抜け金剛寺への山道を登る。寺より北へすぐ神の谷林道へ出て南に向きをかえ、緩度かカーブを曲ると東谷出合いにつく。この間約50分、マイカーだとこれを省略でき時間に余裕ができる）

白髭岳付近略図



息子のマイカーを見送り東谷右岸林道を行くと、約10分で林道は終わり、谷を左岸に渡り山道を登る。再び右岸に渡り少し行くと谷水を引く村の水源場があり、汚さないよう注意書がある。ここで谷を渡り左岸を行く。もう一度右岸に渡ると、山道は少しずつ谷と離れゆるい傾斜で前方に続く。途中、壊れかけた山小屋を右に見て登って行くと、谷をせき止めるような大きな岩壁があり、細い滝だが20mほど落下している。手前で左へ大きく高巻くと、右下にまた山小屋を見て前進する。すると今度は水の滴る巨岩の前に出る。水の補給に最適。ここを左に行きジグザグに高度をかせぐ。

やがて、道はイバラの多い雑木帯から見通しのよい杉林にかわる。振り返ると、樹々の間に大峰の山々が見え雲海が分厚く目の高さにある。この雲海が消えぬ間に山頂を……と苛ち気性の私の足は速くなる。山道は深い杉の植林帯に入りやゝ不明瞭となる。前に迷った地点であるが今回はスムーズに歩が運ぶ。傾斜は急になり暗い杉林を赤や黄色のテープを目印に稜線を目指して急登する。登り切って小白髭岳北の稜線に出る。

12月というのに谷からの冷気が心地よい。

ここから稜線を南へ少し歩き、岩部から岩稜の道を小白髭岳目指して登る。右手落葉した樹木の向こうに大峰北部の山々が腰から下を雲海に隠し続いている。樹木が邪魔して写真は撮れない。9時50分、小白髭岳に達す。展望は樹木に遮ぎられ皆無。山頂から少し下った山仕事用の古テントの横から赤テープに導かれ小白髭岳を下る。実はこれからが大変なのだ。白髭岳山頂までいくつかのコブやピークを越さねばならない。小白髭岳頂の鞍部はちょっとしたキレット状になっており、両側の山肌が急角度で下降している。

少し登って小さなコブに出る。以前ここは樹木によって展望はなかったが、最近伐採されたのかすこぶるよくなっている。左側北方向は、大峰の山々と白屋岳にはさまれた吉野川一帯の谷が真綿に埋まり、眼下の中奥集落が薄い雲海から透けて見える。峰山が岩の鋸を所々につけて高くせり上がり、その後に白屋岳、ジョウブツ山、薊岳がスカイラインを描いている。素晴らしい展望だ。右側南方向から西方向も全ての谷間が雲海で埋めつくされ、大台の山々が真黒いシルエットで見え、大峰山脈の大普賢岳から佛生ヶ岳、釈迦ヶ岳にいたる稜線が、幾重かの尾根のしわとなって明確に続いている。八経ヶ岳、弥山はここ

からは見えない。
今日この時間、この地に立ったことに私は驚喜した。帰りには恐らく雲海も消えているだろうと惜しみつつ前進する。笹をかきわけ次の鞍部に下り再び急登。登り下りを幾度か繰り返しついに白髭岳手前のピークに着く。このピークは岩と小笹の混り合った気持ちのよいヤセ尾根で、眼前に尖作的な白髭岳頂上部を望み、南はナカエ谷と白髭岳から南へ延びる長い尾根がゆるやかに神の谷川に下っている。谷の方から山仕事のチェンソーの音が聞こえる。
いよいよ白髭岳へ最後の登り。とんがり帽子のような急勾配を小枝につかまりながら急登。10時前白髭岳頂上に立つ。
展望は落葉した樹木と東は常緑樹が繁ってあまりよいとはいえない。測量用のやぐらがあったので悪いと知りながらこれに登る。南北、西面の展望が利き、大峰山脈や大台の山々が素晴らしい。目をひくのはやはり大普賢岳東面の壁。ここからみれば殆んど垂直にワサビ谷に落ち込んでいる。山上ヶ岳から北へ続く山並みも見事。五番関のコルの向こうに大天井岳も姿を見せている。先週の今頃はあの山の頂上にいたんだと感慨にふける。(一週間前の日曜日は、高原林道から深切谷を五番関へ出て大天井ヶ岳へ登り洞川に下った)
北側は樹木の間から白屋岳、砂山が望まれ、大峰北端の四寸岩山まで見通せる。薄くなった雲海は綿菓子のような雲になり分散しはじめている。
しかし、この山の最も素晴らしい展望は、山頂から樹林を一分程歩いた東方の小台地にある。ここは樹林から開放され、東、南、北方向に180度のパノラマが展開する。台高山脈主稜を横から展望する場所としてここ以上のポイントはないであろう。主稜は遠く北部から国見山、明神岳、千石山と続きいったん下って赤ぐら山を押し上げ迷岳池木屋山へと続いている。池木屋山からはこちらの方向に向きをかえ弥次平峰を近づけ、再び南下し馬の鞍峰、山の神の頭へと続き、遠く大台の山々に繋がっている。
赤ぐら山から派生した西尾根の戸倉山と登尾の間は丸裸の山肌を露出し吊り尾根状に連なっている。相当なブッシュときいている。
主稜と赤ぐら西尾根間には北股川の大きな谷が喰い込んでおり支谷が稜線上に突き上げている。正面遠く大台国見山、赤嵓、谷高も大きな山容を見せ、さらに遠く三重の山々が薄青く連なっている。少し頭を見せているのは古ヶ丸山か。

地域に合った品揃えを目指しています。
三重県唯一のプロショップ
登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。
登山・スキー・アウトドア
GRINDELWALD
グリンデルワルト
営業時間　AM10：30～PM 8：00　毎週月曜日定休
三重県四日市市諏訪町13－3　TEL 0593-54-0627

白髭岳より雲海の山々を望む

周囲は全くの静寂で聞こえるのは微かなチェンソーと私のガスコンロの音のみである。
人から、よく「一人で山に登って、よう気しょく悪くないなあ……」と云われたりするが、単独行の多い私はこの静寂感と孤独感には慣れっこになっており、むしろこの雰囲気が好きなくらいだ。スケッチ、写真、昼食そして両手に地図を持っての山々の確認と、私は充分に山頂でのひとときを楽しんだ。
11時半、東の小台地を出発。下山まで3時間もあれば十分だろう。精神的にも肉体的にも余裕のある充実感。私は来た道をルンルン気分でひき返す。コブの登り下りも苦にならない。人間とは万事こうしたものだ。始めよければ終りもよし。谷間の雲海はすでになく、午後に近い時刻の山々は青紫色で絹菓子のような薄い雲が眼下を浮遊している。小白髭岳の頂上で小休止。誰も登ってこない。今日、この山に登ったのは私一人のようだ。
小白髭岳北の稜線分岐より急坂を東谷に下る。午後の陽が樹林にさしこみ往路とはまた別の雰囲気である。谷に下り清流にポリタンクを浸す。これが山行の貴重な土産だ。清流で体をふき下着を替える。何故か顔だけが異常に火照り、冷たいタオルで拭うと気持ちがよい。自分自身つくづく健脚だと思う。
14時前、東谷林道出合いにつく。林道を歩き後を振り返ると小白髭岳が丸い姿を見せていた。金剛寺に立ち寄り、村の集会所の前から山道を下る。のどかな午後の山村を抜け吊り橋を渡り、国道から旧街道にある柏木バス停に14時半すぎに到着。冷たい缶ビールでのどを潤し14時57分発杉の湯のりかえ八木行きバスの客となる。本当に充実した山行だった。
(平成3年12月7日歩く)

《コースタイム》
柏木（50分）東谷出合（1時間30分）小白髭岳北稜線（20分）小白髭岳（1時間）白髭岳（3時間）柏木
《地形図》
2万5千＝大和柏木
《参考》
※この山に定期バス使用で登行する場合、日帰り可能であるが、時間的に余裕がなく、出来れば前日午後発、柏木泊まりとし翌日早朝から山に取り付けば素晴らしい山行となるであろう。

連載

日本霊山紀行 5

金峰山（きんぷうさん） 2599メートル

浅野孝一

金峰山は奥秩父連峰の西端に位置する山で、昔より修験道の山として知られていて、その南からの登山道には、旧蹟が地名として残されている。

『日本山嶽志』には「金峰山　甲斐國中巨摩、北巨摩ノ二郡信濃國南佐久郡ニ跨ル、中巨摩郡宮本村字黒平ヨリ凡六里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高八千四百二十尺。」と説明している。

甲斐の国の地誌、松平定能編輯の『甲斐国志』巻之二十、山川部第一巨摩郡北山筋には「金峰山　府北拾弐里、山頂ニ蔵王権現ヲ祀レリ州ノ北鎮ニシテ享保中勅許八景ノ一ナリ背面ハ信濃、武蔵、上野拏九拾里ニ跨カルト云山口九所アリ……絶頂ニ特立スル一大巌ヲ御影石ト云高弐拾五間其ノ巌ノ南面ニ倚傍テ神祠ヲ建ツ是即山宮ナリ又本宮トモ云」と記している。

又、巻之六十二、神社部第八八代郡中郡筋には山頂付近のこと、修験の事に関し「蔵王権現　山宮ト称ス御嶽村ノ黒宮ヲ距ルコト五里五拾町正北ノ方金峰山ノ項上ニ在リ社西ロ面ルトコロ少彦名命ナリ……御影石高サ弐拾五間横拾八間其頂ニ小祠アリ形チ蛤ノ如シ其ホ大旱ニモ涸レス甲斐派美ト称ス……関東関西ノ山伏等古大峰ニ擬擬シテ此山ニ入峯シテ修行ス六月十五日ヲ峯入ノ初日トス……」とある。御影石とは山頂の一角にある五丈岩のことである。かつてこの山に多数の山伏が入山したことと考えられるが、現在の山中に白衣の登拝者を見ることはない。

金峰山と五丈岩（千代の吹上手前にて）

又、登山口は九ヶ所あったと述べており、その主な登山道は御岳昇仙峡のある荒川を遡り、御岳即ち金桜神社から黒平を経て登って行くものであったが、このコースをたどる登山者はあまりない。途中に仏坂、巫子ノ沢、御室小屋、鳥居嶺、勝手明神等の地名が残っている。

奥秩父に足繁く登山した木暮理太郎は、『山の憶ひ出』の中で金峰山のことを、「百貫の貫録を具えた山」と表現している。このことからも奥秩父連峰の盟主として恥じることのない風貌を持っている。

現在この山へのルートは二つがある。一つは北側の信州からのもの、即ち『甲斐国志』のいう信州佐久郡からの北口にあたるもので、梓山の秋山から川端下を経て登る。山麓の廻り目平に金峰山山荘、山頂近くに金峰山小屋がある。

今一つのルートは西方の里宮平からのもので、里宮平にある瑞牆山荘か富士見平小屋に泊まり山頂をめざす。第一日目、韮崎から夕クシーを利用して里宮平の瑞牆山荘に泊まる。昼近く瑞牆山荘に着けば、その日のうちに瑞牆山への登山が可能である。

第二日目、瑞牆山荘前から林の間を登る。車道を横切り水場の近くを登ると富士見平小屋に着く。途中左手に瑞牆山のプロフィルを見ることができる。富士見平小屋で登山道は二分する。金峰山へは右手の道をとる。深い樹林の中を登り、飯森山の南面の木の根、岩の露出した所を過ぎると大日小屋に着く。

再び樹林の間を登り大日岩の基部に出ると南に展望が広がる。大日岩をまわり込んで尾根に出ると、左に小川山への登山道が分かれている。ここから樹林帯の緩い坂を登ると左手樹間から金峰山が見えてくる。少し急斜面を登ると金峰山へ続く岩尾根へ出て、まわりの展望は広がる。前方に五丈岩を見ながら、岩とハイマツの間を進む。

五丈岩への途中に千代の吹上げがあり、さらに登ると五丈岩の基部に着く。金峰山はその先で三角点がある。五丈岩へは東側から登ることができる。その基部には朽ちかけた祠がある。360度の展望を楽しんでから下山する。

帰路は往路を下るのが一般的だが、北へ金峰山小屋経由で廻り目平へ下ることもできる。又バリエーションを好む人は、南へかつての登拝道を御岳昇仙峡へ下ってみるのも面白い。

「未だ若い山登りの初心者として、はじめて金峰山の頂上に立った私は、抑え難い衝動に昂ぶる心を満足させたのであった。そして岩を下りると、小さい灌木の青い函にぶつくりと身を埋めて、ごろりと寝転んだまま長い間空を見詰めていた」とは木暮理太郎の紀行である。

「底畑模材は『五月の金峰山』の中で、黒平水晶峠を越え、「正午少し前、漸く五丈岩の下に辿り着くことが出来た。然し絶頂は其の背

金峰山付近略図

後の高みなので、五丈岩は後刻のこととして先ず絶頂へ駆け上る」と記している。

そして、奥秩父連峰で忘れることのできない人が、まだ一人いる。『奥秩父』正・続の著者、原全教である。

【コースタイム】里宮平・瑞牆山荘（50分）富士見平小屋（1時間）大日小屋（40分）大日岩（2時間）金峰山（1時間20分）大日岩（20分）日小屋（50分）富士見平小屋（30分）瑞牆山荘

〈地形図〉2万5千＝瑞牆山・金峰山

昭文社＝「27奥秩父2金峰山・甲武信」

金峰山山頂にて（中央が筆者）

小憩

私の推薦する山の本

『知的登山のススメ』（山と渓谷社）

浅野孝一著

知的登山とは「山を読んで、登って、書く楽しみ」であると締めくくってあるように、同じ山を歩くのであれば、その楽しみ方を深めることも大切ではないでしょうか。

人それぞれに、山の楽しみ方が違い、山に対する観点も違いますが、自己流の登山から一歩進んだ山歩きの楽しさを研究されてはいかがでしょうか。

この本を手にしたときから、きっと楽しい登山のバリエーションが広がることでしょう。山の知識も同時に吸収できます。

秋の雨の日の休日は『知的登山』とシャレ込んでみましょう。

（村田智枝）

【データ】

YAMABOOKS23・新書判

1992年9月25日発行　定価800円

GAIA

キャンプ・ハイキング　ザック

テトラ　48ℓ　赤札￥9,000

アリゾナ35ℓ　〃　￥6,800

特長

① パラレル、インナーフレーム付

② スーパーウエストベルト付

GAIA-JAPAN

山とスキーの

ヨシミスポーツ

〒543 大阪市天王寺区寺河堀4−70

TEL06(772)7231

FAX.06(779)2191

鈴鹿

鈴鹿山地の展望の山

銚子ケ口（ちょうしがぐち）

松田敏男

鈴鹿山地の地図を広げると、滋賀県と三重県との境に、主稜線が長くゆったりと続いているのが分かる。標高は1200㍍台が最高で高くはないけれど、同じぐらいの高さの山が連なる比良山地に比べると、倍以上の長さがある。その主稜線上の主峰のひとつ、御在所山より西へは、鈴鹿第二の標高を持つ雨乞岳と、近江三霊山のひとつ綿向山が、大きく派生している。また、雨乞岳からは北へ長い山稜が続いていて、その最北の突起が、三角点もある銚子ヶ口だ。標高は1076・8㍍と立派であるし、主稜線からは西に谷を隔ててはずれていること、派生している支稜なのに、とてつもない大きい山容の雨乞岳が南にあることなどから、地図の上から判断する限りでは、こんな条件の揃った展望の山はそう多くないと、以前から登りたい山の筆頭のひとつとして思い描いていた。

厳しい積雪期にぜひ登りたいと思っているが、とりあえず初回の山行としては、展望が予想通り実現しそうな、木の葉の落ちた初冬の12月15日に登ることにした。一年で最も昼の短かい時期だが、行程はそれほど長くなさそうだし、往復同じ道にして、ゆっくり楽しもうという計画にした。

山の会のメンバー4人で、京都駅八条口を7時に出発。永源寺ダム湖の水位がずいぶん下がって、段々畑がミイラのように現われている姿が、痛ましくながめられた。蓼畑の日本コバへの登山口の石の階段を左手に見送り、紅葉尾に入る。私の持っている地図は古くて、愛知川沿いの集落を縫う道は通らず、いつの間にか幅広いバイパス道を走っていた。愛知川が茶屋川と神崎川とに分かれる二俣まで来てしまう。銚子ヶ口から真北に稜線が愛知川めがけておりていることにはなっているが、山の端がはっきりした地形ではないのか、ゆるやかに丸くその上にバイパスが通っているので、山に入る道が分かりにくい。今来た道

山頂より御在所山、鎌ヶ岳を望む

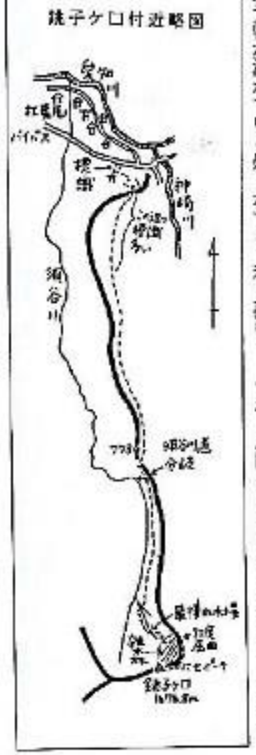
をゆっくり戻りながら、左手に何本か現われる道を、山道となる作業道なのか、単なる作業道なのかを、見極めるようにする。そのひとつの道路に、小さなプラスチックの標識を見つけた。銚子ヶ口山と書いてあるではないか。来る時は立派なバイパスのお陰で、ついうっかりと見過してしまったのだ。広い舗装道路から畑仕事の小径に入るその角は、光をさえぎる木など全くない、山に入る前の情感からはほど遠い風情だが、みんなで身支度をする。

少し歩くと山の中に入れた。奥には小さな社があり、手前を左に折れる。山腹をジグザグに登る。銚子ヶ口山の標識がいくつもある。案内の行き届いている山だ。地味な存在のように思っていたので、この標識の多さは意外だった。里に近い山は、どこかほこりっぽくて葉や幹が汚れている感じがする。私も悪いことをしているような気分になって、気持ちが晴れない。乗っ越しに出た。尾根の下手は、車で行き着いた二俣に向かっているようだ。乗り越した西側は、緩やかな地形が続いていた。すぐ左手には稜線の上が見えているようだが、トラバース気味に登る。植林帯なのでいくつか道が錯綜しているが、標識がたくさんあり、全く迷わない。鈴鹿の山と言えば、二次林が多く、初冬の頃は明るくて、落ち葉がいっぱい積もっていて、歩くたびに舞い上がる道が多いのに、ここはそんな豊かな気分にさせてくれない。単調で暗い植林道だ。そう言えば、地図上でひとつだけ気になることがあった。それは不自然なほど強引に、銚子ヶ口山頂をめざして、国定公園域から外れていることだった。

しかしそんな残念な面も、高度が上がるにつれ、周囲の山々が見え出すことによって、気にならなくなってきた。まず正面に、武骨に威を張っている岳を仰ぎ見る。山の名前が岳だけなのだ。標高は791・3㍍。名前まで無骨だ。左手には845㍍峰と898・7㍍峰。秀麗な鋭鋒で、ほんのわずか雪が光っている。トラバース道はだんだん尾根の上近くに上がってきた。御池岳が雪をまとって、山頂部を横一線にして東西に長く、どっかと横たわっている。その左奥には真っ白の霊仙山、遠くかすんで伊吹山。御池岳の右手前には、静ヶ岳や竜ヶ岳の山々がくっきりと望まれる。

登山道は778㍍独標点の東側を巻いて、尾根の上に出た。そして西側に移った。須谷川の谷をはじめて見おろす。すぐに須谷川道との分岐に着いた。それより上は、須谷川も小さな流れとなって、すぐ右手下に近づいてきている。雪がところどころ残っており、小さな滝もあって明るく見わたせる。尾根の西側の山腹道を登るが、尾根の上にも踏み跡があるようだ。

小さな支流をふたつ渡ると、支流に沿って道は上がっている。それを折り返す所が最後の水場だった。この上からが、今回の山行の最高の所だった。美しい雑木林が、雪の緩斜面に広がっていた。あたたかな光が、雪の面に降りそそぎ、けぶるような細かな木々の枝



銚子ヶ口付近略図

須谷川道分岐付近より銚子ヶ口を振り返る

の影が、どこまでも続いていた。ゆるやかに登りつめると、尾根は直角に南に曲がっていた。

尾根の上には、先程の夢幻的な景色はなく、広大な展望が待っていた。伊吹山、霊仙山、御池岳はもとより、御在所山、鎌ヶ岳、雨乞岳、綿向山などが、間近に居並んでいたのだ。山頂のひとつ手前のピークは、周りに灌木が少なく、すこぶる展望のよい所だった。そのピークから西へ曲がって、銚子ヶ口の山頂に着いた。

座ると灌木の中に入ってしまうが、その分風は少し防げる居心地のいい山頂だった。地図上で予想していた通り、最高に眺めのいい山頂だ。雨乞岳は、その手前にも大きな草原の盛り上がりを持っていて、奥深くゆったりとしたいい山容だ。鎌ヶ岳のするどい尖峰がその左に見えて、なかなか変化のある景色だ。

それらの山々は、北斜面が見えているので、雪もついていて高山的だ。山頂から南へは笹原のゆるやかな起伏の山波が続いている。その中に池があることを、近江八幡市にお住まいの、近江の山に詳しい松江延浩さんに教えてもらった。山上の池というのは夢があっていい。次の機会には、ぜひ訪れたい。佐目峠まで続く草原の中を歩きたい。そんな余韻の残る銚子ヶ口山行となった。

（平成3年12月15日歩く）

〈コースタイム〉バイパス銚子ヶ口標識前（1時間50分）須谷川道分岐（50分）最後の水場（40分）頂上（20分）水場（40分）分岐（1時間30分）バイパス

〈地形図〉2万5千＝竜ヶ岳・御在所山
5万＝御在所山
昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」

新刊
鈴鹿の山と谷(6)
西尾寿一 著　A5判・三七〇〇円
—仙ヶ岳・野登山・那須ヶ原山・油日岳ほか—鈴鹿南部には深くはないが、しっとり溶けこむような山旅が待っている。
全6巻完結!!

新刊
兵庫丹波の山(下)
慶佐次盛一 著　四六判・二〇〇〇円
—多紀郡の山—丹波の篠山をめぐる多紀アルプスをはじめ一一〇余山その全域を各山地図付きガイド
上巻（氷上郡の山）好評発売中!!

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎京都 075-751-1211 〒606

アウトドア・ライフ入門 ❼

野外塾

●秋の木の実

関西アウトドアースクール
校長　二　名　良　日

秋も深まり、一年中で最も爽快な山歩きのベストシーズンになりました。

秋のことを英語では「フォール」ともいい、"木の葉や木の実が落ちる季節"と特徴づけし、また「ハーベスト・シーズン（収穫の季節）」として、木の実やキノコなどの「みのり」の季節と位置づけています。

東洋の漢字文化圏でも同様の認識があったようで、「秋」の字を分解すると"穂のある草木をとり入れる"という意味になるそうで、自然をめぐる東西の符合に、心が動かされます。

この「味覚の秋」そして「食欲の季節」を楽しむという視点から、今回は山行でよく見かける「木の実」に注目し、研究します。

ギンナン

まっ黄色に紅葉し、秋を象徴するイチョウの実の種子。果肉がウンコ臭くカブレるので土に埋め腐らす。日本酒のツマミに最高！

クルミ

同じく果肉を腐らせ、硬い種を割って、中の油っこいナッツを洋酒のツマミなどに。

シバグリ

大玉の丹波栗なども、小粒だが甘い柴栗が原種。登山靴でイガを踏みにじって取る。

トチ

大きくて多量に採れるので、縄文時代から食用に。水さらしてアクを抜き、栃餅に。

カヤ

実を虫下しに使う榧の実の種子は、アーモンドそっくり。油も取れる。

シイ

細長いスダジイ、丸いツブラジイがある。実は小さいが、甘さはNO1。リスの好物。

マテバシイ

もうちょっとでシイほど甘くなる?、と言われるぐらい渋味が少ない。鉄砲玉そっくり。

イチイガシ

ドングリの仲間はアクが強く、水さらしをしてデンプンを取るが、これは例外。

ウバメガシ

海辺の山に群生し、備長炭の材となるこの木の楕円形の実も、あまり渋くない。

アケビ

卵大の紫色の皮が割れると、バナナ状の果肉が食べられる。皮も食べられ、肉を詰めたりする。近似のムベは、実が割れない。

ヤマブドウ

酸味・香り・色が鮮烈で、酒・ジュース（冬のお湯割りが美味）・漬物（ナタ切り大根の色漬け）などに。葉の切れ込みが大きい。小粒のエビヅル、行者の水とも呼ばれるサンカクヅルは食べられ、ノブドウは食べない。

ヤマナシ

野性の小梨で、大木は材にも利用される。木地師たちが食べた種で広まったとも?。

ケンポナシ

分子模型のようにつながった核果の、黄色い中身が甘い。酒気を消すので二日酔いに。

サルナシ

コクワと呼ばれ、リンゴ・ナツメの味。キウイの仲間。猿が木穴に貯め酒を造った?。

マタタビ

サルナシの仲間だが、葉に白斑。実は小指先大の涙粒形。猫科動物を興奮させる成分や強壮薬効があるといわれ、アルコール・ハチミツ漬けに。虫食い（虫えい）が特に強力！

チョウセンゴミシ

甘・辛・苦・酸・塩の五味がして、朝鮮人参と同じ薬効があるといわれる。

クコ

赤橙色の実の種を取り、干してかじる。クコ酒はトロ味があり、肝腎・強壮などに。

ウワミズザクラ

アンニンゴと呼ばれる蕾の塩漬けが有名。アルコール漬けは赤橙色で杏の香り。

イチイ

ジンの香りがするルビー色のヘソのような果肉をアルコール漬けに。種子には毒があり注意!!

イヌマキ

実の下の花托は、ゼリー状で子供の好物。

ムクノキ

果肉は干し柿・デーツの甘味。丸く大きい種子は鳥の羽をつけ、羽根つきに。

ヤマボウシ

サッカー球状の実は、ネクタリンの甘さ。

ガマズミ

山アジサイの花状についた赤い実を、竹筒に入れ、棒でつぶし、汁をなめる。

シャシャンボ

ブルーベリーに似た実で、ジャムを作る。

ナツハゼ

夏の終りに葉が赤くなり、実が黒くなる。甘酸っぱい味は、疲れをリフレッシュする。

アキグミ

小粒の実なので、お酒に。葉はお茶に。

クサボケ

黄色くなった実を、カリン酒のように。

クマイチゴ

フユイチゴと共に、秋からがシーズン。

ネズミモチ

実は胃腸に効く漢方薬といわれ、煎った種子は、アオギリと共にコーヒーの代用に。

お知らせ

「自然入門ビデオシリーズ」発売

木の実だけでなく草の実や苺の実、キノコの種類や料理法、食欲だけでない秋の自然の美や芸術……を。二名良日校長監修・朝日新聞社発行のビデオで、映像体験して下さい!!

VOL3「秋の山野草・木の実入門」
VOL4「森の宝石・キノコ入門」

「関西アウトドアースクール」予定

第2土曜・日曜・祝日に、「奈良フィールドアスレテック」で、自然入門のフリースクールを開催中です。無料ですので、お友達・ご家族と、ふるってご参加下さい!!

10月「アウトドアー芸術祭」
11月「野焼き・土器作り」
12月「ドライフラワークラフト」

〈問い合わせ先〉

◎ビデオ　電話06（357）2710
『サンクラフト』〒530大阪市北区紅梅町1の14カサビアンカ4Bまで

◎スクール　電話06（531）1810
『防腐保林』〒550大阪市西区西本町2の5の19ニューオカザキパシビル4Fまで

古代の史跡(ロマン)を探る

太郎坊山(たろうぼうやま)と雪野山(ゆきのやま)

多摩雪雄

湖東

プロローグ

「新たに鏡を作った。明るいことは日月の如く、天の隅々を照らす。富めることは天の如し。位は左大臣、右大臣、太政大臣に至り、侯王に出世する。東龍と西虎は不詳をしりぞけ、朱雀と玄武は四方をつかさどる。これを持ったものは長生し、買うものは富なること金石の如し」

これは、神仙思想を表現したものである。と、裏面の中心部と外縁部の間の銘帯に、刻まれていた銘文を、大阪大教授・都出比呂志氏が、現代的に訳文した三角縁神獣鏡は、魏王から卑弥呼に贈られた百枚の鏡の内の一枚で、景初三年（239）頃と推定される。

四世紀後半の雪野山古墳から出土した五枚の銅鏡の内の一枚で、平成元年10月1日に八日市市教が発表し、現地説明会には三千人の古代史ファンが集まった。

また、同年10月19日の新聞記事によると、それまでの調査で判明した雪野山古墳の木棺は、古墳時代前期中頃（四世紀中期）の舟形木棺で、木棺としては初めての、両側に運搬用の縄掛け突起が付いており、長さ5・3㍍、北端幅88㌢、南端幅78㌢であった。

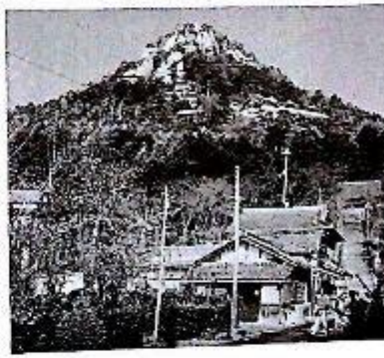
これまでに出土した舟形は、栃木県七回り鏡塚古墳の五世紀中期の一例だけである。

雪野山南麓の竜王寺は、八世紀前半の如来、菩薩、天部の多くの塑像断片が出土した雪野寺跡地で、渤海使が来朝した宝亀八年（777）の梵鐘と十二神将は共に重文であり、三重塔跡、講堂跡、金堂跡（現本堂）、南大門を有する大寺である。

現在、雪野山南麓、野寺の社寺記号は、天神社と、この竜王寺である。

これらの事跡を知っていたなら、もう少し詳しく探査したのであるが、私達が昭和63年12月中旬に登山したのは、頭書の新聞記事より2年前のことであった。竜王寺や苗村神社の歴史の一端は、平成になってから入手した、京都書院発行の木村至宏編『近江の山』によるもので、本書は、単なる紀行案内ではなく、史跡探訪の指針として、座右に備えて知識の糧とすべき好著である。

二ノ鳥居より見た太郎坊山宮



瓦屋寺から太郎坊宮へ

私は、計画を立てる段階で、市町村役場や地元山岳会に照会して、宿舎の規模内容、タクシーの車種台数、名所旧蹟の所在といわれ、登山ルート等を、或る程度把握しておく。閑とお金に余裕のある熟年グループ二百名に、年間スケジュールを渡しておき、一行程20名を目安として、青春18キップ発行期間は、ほとんど利用し、その八ヵ月間の山旅を、鈍行列車で楽しんでいる。

JR近江八幡駅で乗り換えた近江鉄道の、八日市駅近くの安宿から10分の松尾神社は、駅西の神社記号で、桃山初期の枯山水庭園は、山を背に多くの石組みを配して、拝殿と神殿の間にある。古くは瓦屋寺の別院瑞勝寺という大寺であったが、織田信長の攻撃により、焼失し、後に、京都松尾大社の分霊を勧請した。六角佐々木氏の配下・箕作城主建部氏の邸宅跡であろう。と、される。NHKの大河ドラマ『織田信長』では、6月14日の天下布武で箕作城を落城した。

駅から瓦屋寺へ2・4キロとある。図上の車道を見送って、昔の村道を真北に進む。右手は、近江鉄道の線路まで、荒涼とした枯田を見ながら、建部瓦屋寺町へ、東から西へ、標高差170㍍、直線距離600㍍も続く石段下に着いたのは、駅から20分後の7時35分であった。

毎朝石段を掃除しながら、お詣りを欠かしたことがない。と、いう中老の男性と、挨拶代わりに、一言、二言。

相州大山の石段上りと、四国金刀比羅神社の石段登りや、比叡山各坊間の石段、その他も登ったが、平段や踊り場があったりして、大して苦にはならなかったが、湯若山四層越え前後の、千数百段の木段下りには、さすがにまいった。

しかし、この瓦屋寺への自然石の石段は千段もあって、丁度30分かかった。途中の閻魔堂・聖徳太子腰掛石や塔頂跡には、野花を供えた石仏群があり一～二個所大きく崩落して脇道が作られた所もある。

箕作山城址の東のコブを瓦屋寺山といい、その頂上の僅か下方の300㍍圏の平坦地に、大寺の瓦屋寺がある。

真新しく立てられた寺伝を要約すると、「聖徳太子が四天王寺建立の前、この山麓一帯の土をとって瓦を焼かせた。日吉の御池は、その採土跡という。よって瓦屋寺を建立したのが始まり。と、あるが、それは現も内、入

り口付近に白鳳時代の瓦窯跡が発見され、此の地で瓦を焼いていた百済渡来工人の菩提寺が始めであろう。と、考えられる」

〔註〕崇仏派の蘇我馬子と、祖神信仰派の物部守屋との大戦争が始まり、蘇我軍利あらず敗退す。この時、蘇我氏の血を引く十四歳の聖徳太子は蘇我軍に加わり、四天王像を彫って戦勝を祈願し、物部軍を殲滅する。そして、推古元年(593)二十歳で摂政となるや、難波に四天王寺を造営した。その四十年前より百済人来朝し、崇峻元年(588)には、瓦博士が他の博士、工人等と渡来している。

雪の積もった境内には、立派な寺務所から矩の手に、石垣を高く築いて重厚な本堂があり、重文の千手観音と四天王像、荒格子から幽かに拝するが、雪の朝の勤行はすでに終わったのか、寂として、聞こえるのは我々の踏む雪の軋みだけであった。無人に等しい境内を、30分もの間拝観後、雪の市道を太郎坊宮の駐車場に着いたのは8時45分であった。

箕作山南稜中腹の岩棚に、多くの末社を配し、巨巌夫婦岩の狭い裂け目を抜けた本殿も、垂直に屹立する大岩を背に鎮座しており、狭い授与所には神官も巫女も座している。瓊瓊杵尊の父神で、天照大神の第一皇子神天忍穂耳尊を祭神としている。(ニニギの曾孫がカムヤマトイワレヒコ命、即ち神武)

千四百年前の創祀と、いうと、推古朝で、百済の工人が多数渡来した時期であり、瓦屋寺建立以前とされている。

40分かけた本殿一巡も、石段の登降だが、二ノ鳥居への下りも五百段の石段で、タクシーと約束した10時の10分前に着いた。

振り返る岩山は、ピラミット型に青空に突き立ち、その懐に、青瓦を雛段式に重ねて、各社殿が濃緑の樹林を分けて浮き出ていた。

雪野山北登南降

江戸中期の枯山水の見事な庭園の光明寺で、重文の薬師如来と大黒天を拝して、中羽田の多聞院を後にしたのが10時40分。すぐ先に、奥田孫太夫重盛、同貞右衛門行高の墓が、皇紀二千六百年に建てられた。吉良邸に打入った赤穂義士の父子である。

無住だが、立派な神楽殿とトイレもある松林中の八幡社から、自然石の石段を二百段登った御本社には、11時ちょっと過ぎに着く。此処はもう稜線まで高差50㍍の地点で、左の参道を僅か5分で、見晴らしのいい送電鉄塔の肩に出る。小憩して、深い落ち葉を踏んでゆっくり登ってゆく。

大月書店
東京都文京区本郷2-11-9
電話03(3813)4651〈代表〉
FAX.03(3813)4656
振替東京3-16387

峰々を求めた女性たち

坂倉登喜子・梅野淑子著

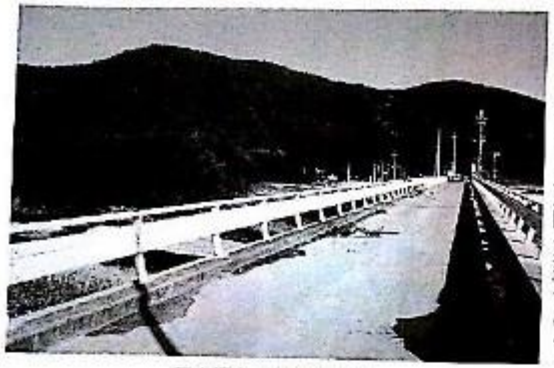
日本女性登山史

資料・エピソード満載　初めての女性登山史

A5判並製カバー　定価1600円

不思議なことに、この山には雪が無い。松、檜の混る植林帯は、雑樹の枝が張っているが、1㍍幅にビニールテープで、道形を確保して、伸びる枝を防いでいる。

11時40分に、小広い雪野山頂上に着く。南方の見晴らしがいい静かな一隅に、308・82㍍の1等三角点標石は、実に綺麗な貌をもたげていた。点名は竜王山Iであるが、地元では通じない。地理院の勉強である。



野寺橋より望む雪野山

三本ある南の降路の内、図記されている野寺ルートに入ったのは、一時間後であった。三百十段下った四阿は見晴らしがよく、古墳群を縫って尚も二百段下りて、図記の発掘現場説明会場として、公園風に設備したトイレを有する広場に出る。車道を右へ僅か歩き、天神社と竜王寺を拝した後、13時15分長い野寺橋から振り返った雪野山は、濃緑のおだやかな線を引いていた。

エピローグ

川守バス停で通過時刻を確認して後、宅地角に建つ川守城址の石碑前の、児童遊園の中に、川守4等三角点107・13㍍を見てから、苗村神社を参拝する。

豪壮な重文の楼門をくぐって、広大な境内に入ると、国宝の西本殿を始め、室町期の社寺建築五棟、および、不動堂内の不動明王もすべて重文である。また、道路を隔てた東本殿も簡素ながら重文で、こちらは天然林中に通ずる参道が長い。

小野道風が没した三年後の安和二年(969)大和の吉野から移される。と、寺伝にある延喜式内社の長寸神社で、那牟礼彦、那牟羅姫二神を祭神とする。この年、冷泉天皇は在位僅か二年で同腹の円融天皇に譲位する。数ヵ日前の安和の変に関連したのか。

寛仁元年(1017~20)、後一条天皇より苗村の称を賜って現在に至る。と、いう、格式高い神社で、例祭は4月20日、三年毎に式年大祭を執行する。

バスを一台遅らせても、苗村神社に参拝した一行は、満ち足りた思いで、楼門の前に整列した。いま正に14時ジャスト。冬至間近の長い影を、掃き清められた地上に引いてシャッターの下りる瞬間であった。

〈コースタイム〉略(文中を参照)
〈地形図〉2万5千＝八日市・日野西部
〈問い合わせ先〉
八日市市役所　0748(24)1234
近江タクシー八日市0748(22)2211

小憩

新ハイキング関西では、昭文社の『山と高原地図』(エアリアマップ)のモニター1をすることになりました。より正確な登山地図とコース概要の発行をお願いするために、関西地区を中心に、新しい情報などありましたら、どしどしお寄せ下さい。

信長ゆかりの史跡を訪ねて
安土山（安土城跡）

遊津米男

湖東

今年（昭和62年）の「信長まつり」は幹事さん方の苦心のアイデア作戦により、信長史跡を巡るハイキング「信長ゆかりの安土城を訪ねて」が企画され、ご案内をいただきました。

当日は日頃の信心と精進よろしく快晴に恵まれ、家内共々、京都駅午前9時52分発米原行きで安土駅に着いた。すでに駅前には、総勢57名の参加者と安土町職員3名の合計60名が集合し、大盛況ぶりに圧倒される。

早速、参加者全員に、今日のツアーリーダー浄厳院の鈴木住職より、安土山案内図と新発売された「信長まんじゅう」の参加記念品を頂戴する。全員集合したところで、安土町職員の方から、大きなメガホンで安土城下町の概略の説明を聞く。

まず、朝鮮人街道について。浜街道ともいい、寛永年間以後、将軍の代替わりごとに来聘した朝鮮の使節が東上の折、必ずこの道を通過したため名付けられた。またこの道は、関ケ原の戦勝後、徳川家康が上京のため最初に通行した道であったため、徳川家では縁起の良い道として重要視してきた。朝鮮の使節がこの道を通るのもそのためだともいわれる。

安土城跡について。天正四年（1575）正月から約3年の歳月をかけて、普請奉行の丹羽長秀のもと、東海、北陸、近畿の家臣・大名を動員。加えて、狩野永徳を始めとする、京都、奈良、堺などの名工を集めて構築された。我が国では最初の近世的城郭であったが、天正十年（1582）本能寺の変の後、兵火のため灰燼に帰した。今では石垣等に、当時の面影を残すのみとなっている。

安土城絵図（大阪城天守閣蔵）

また、楽市楽座については、信長が天正五年、城下の繁栄を計るために安土城下に13ケ条の楽市楽座令に基づいて発布したもので、それまで大きな寺院、神社、中央貴族などの保護のもとで、座を結成して独占的な販売権を持っていた座商人の特権を否定し、新興商人をも組織した領国経済の確立を目的とした政策であったようだ。

また、信長が相撲を好んだことはよく知られているが、安土築城の6年も前に常楽寺で相撲が行われていたことなど、歴史にまつわる貴重なお話を聞いて、いよいよ10時55分、摠見寺三重塔を仰ぎながら安土山（安土城跡）をめざして出発する。

信長画像（長興寺蔵）

余談になりますが、私事ながら、40数年前（戦時中）、祖父といっしょに西の湖へ鮒釣りにきて、安土駅で下車した記憶がよみがえり、当時駅前で泊まった木賃宿が現在もそのままの姿で残っているのを見て懐かしく思いました。

素朴な駅前通りを北上して、朝鮮人街道を横断する。セミナリヨ跡へ折れる角に、風格のある、一軒の瀟洒な民家がある。信長時代の武家屋敷の面影を今に伝えるという東家である。門柱の表札に「伝承豊臣秀吉邸跡」と掲がっている。石垣をめぐらし、安土山を背景にしたたたずまいは歴史の重みを感じさせてくれる。

続いて、セミナリヨの跡地に行く。民家に囲まれた史跡小公園として整備されている。天正八年（1580）イエズス会宣教師オルガンチノが信長から安土城下の新しい埋立地を下附され、そこに建設されたキリシタンの神学校がセミナリヨである。このように安土セミナリヨは日本最初のキリスト教学校である。しかし天正十年本能寺の変の後、安土城焼失とともに焼失している。現在の史跡小公園もここであっただろうとの推定地であると、職員の説明を聞く。途中セミナリヨ史跡小公園の東に広がる沼地は往時の内堀とも。しかしこれも今日では大部分が埋め立てられているので、この話も推定とされる。

眼前に見える安土山へと歩を運ぶ。かつて安土城時代には城下町にもっとも接近した門、摠見寺の表門、百々橋道に到着する。道路の向かい側に「安土城址」と大きく刻まれた石碑前に出る。左側の出合いに小さな社、石部神社の赤い鳥居を見る。正面は安土城焼失後も摠見寺の参道として維持されてきたため、城中の道路の中ではもっともよく当初の姿をとどめている。山頂の摠見寺跡まで、かなり急勾配の石段が連続すると聞き、参加者一同緊張の一瞬。おそらく本日のハイキングのハイライトコースであろうと思う。途中、重文指定の木造金剛二力士立像を安置した摠見寺仁王門をくぐり、なお急登の続く石段をつめると、同じく重文指定の摠見寺三重塔前へ飛び出す。

安土山山頂摠見寺本堂跡にちょうど正午に到着する。展望は西北方向がひらけ、比良連峰を望み、その手前に琵琶湖が広がって、眼下には大中の湖、干拓地、近江八幡の水郷、西の湖が見え、すばらしいパノラマ展望にしばし酔う。

昼食宴席中、職員の方から、横に建つ摠見寺三重塔の説明をうける。もちろん重文指定で、天正年間に信長が当地に移建したもので、もとは堂内に本尊として大日如来、脇侍に不動、毘沙門及び竹生島から勧請した弁財天を祀っていたということ。また、私たちが陣取っている本堂跡は安土山の最西端に位置する一支尾根上に建てられていた。しかし安政元年（1854年）雷火により焼失し、今日では礎石が残されているだけであるとのこと。

もちろん、信長が安土城築城にともない創建

した寺である。安土城焼亡のさいにも焼失せず信長の菩提寺として、その法燈は守り伝えられてきたということです。

昼食時間もあっという間にすぎ、重い腰をあげて安土城跡へと出発する。快晴の青空のもと、安土山の木々も紅葉、黄葉に染まり、晩秋のハイキングは最高に盛り上がる。いよいよ摠見寺道を抜けて、安土城の核心部への入り口ともいえる黒金（くろがね）門跡に到着。鉄門と呼ばれ、大手口から天守に至る門の中でも第一級のもの。石垣も安土城の中では最大級のものが使われている。城内でも比較的旧状をとどめている個所のようです。黒金門を抜けたところで、職員の熱心な説明に力が入る。両サイドの石垣は安土城跡主要部で、特に二の丸を取り囲む石垣は何回かの兵火のたびに石が赤くなって崩れ落ち、その都度補修を重ねてきたとのこと。その石垣石積の技法が穴太（あのう）積で、穴太衆が初めて本格的に積んだのが安土城の石垣であるといわれ、それ以後の城づくりの基本となり、多くの名城の石垣はほとんどこの技法であるという。

本丸へ通じる石段登り口に「仏足石（ぶっそくせき）」を見る。俗に信長の足跡といわれている。石段を登りつめたところに「護国殿霊塔」と刻まれた立派な石碑を見る。続いて現在、天守と二の丸への分岐点に巨岩の〝蛇石〟を見て、天守の西下方に位置する西の丸ともよばれる二の丸跡を覗く。今日では原形を見ることは不可能である。この二の丸跡に天正十一年2月に豊臣秀吉が築いた織田信長廟がある。信長の遺骨、太刀、烏帽子（えぼし）、直垂（ひたたれ）などが埋められている。続いて天守の東南下方、東の丸とも呼ばれる本丸跡へ。天守より10㍍低い地に位置し千畳敷ともいわれる。西端に楷門（かいもん）跡があり、二の丸に通じ、東は門跡をへて三の丸及び堀屋敷などに通じ、北は天守、北東隅からは台所跡に通じている。ただし南は崖となり、一段高い石垣となっている。本丸御殿の東方、一段高いところが三の丸跡であるが、ここを三の丸跡とすることには疑問が多いということです。いよいよ、安土山の最高所、天守跡にいたる。南は本丸御殿、西は二の丸に接し、北側は下方二段の石垣を築いて谷となっている。昭和十五年の発掘で土砂の下から礎石が発見され、当初の規模が明らかにされた。礎石は東西10列、南北10列に配列されていたが、中央部の心柱に相当する部分は欠除していた。

天守の登り口は、東から西へ上がるが、途中で2回屈折し、中ほどの石段のあるところは門跡である。ただし現在の石段は通行者の便宜のために変更されていて、当初の石段ではないとのこと。なお、安土城は北、東、西の三方を湖に囲まれた城であるため、外敵からの水攻めに遭遇する心配はいっさいなかった。

天守閣については、近年名古屋工業大学の内藤昌教授が、新たに発見された資料に基づいて、天守閣を詳細に復元され、多くの特異性が指摘された。五階七重（地下一階に、石垣の内部地上六階）の形状は他の城郭にはまったく見られない極めて複雑な構造となっている。また、内部構造も、地下一階から地上

二階までの中央部分が吹き抜けになっていて、その吹き抜けの空中に吊り舞台が設けられていたこと。地下一階に宝塔が置かれていたこと。五階が一辺4㍍余の八角型に造られていたことなど。復元に誤りがないとすれば、今までの天守閣の常識を越え、まさに信長の独創性が遺憾なく発揮されているということができる。

紅葉の安土城跡▶

▲摠見寺三重塔

説明を聞いたのち、天守閣跡の周囲の石垣に登り、安土城跡からの展望を楽しむ。東方にそびえる繖（きぬがさ）山が晩秋の陽に映えて紅葉がきれいだ。

さらに、台所跡、現在も清水の湧く御井戸と称される城内最大の井戸、天守閣北方下段の尾根上の高い石垣となっている八角平、煙硝蔵跡、射場など、見学の予定であったが時間の都合で省略となる。

一同、天守閣跡をあとにして黒金門跡まで逆戻り。真っ直ぐ西進すれば午前のコース摠見寺本堂跡三重塔にでる。私たちは左折して、石段を下降する。すべて自然雑木林の中で、晩秋の気配が漂っている。紅葉、黄葉の木々を楽しみながら、時には落ち葉の絨毯道を踏みしめながら摠見寺仮本堂に到着した。

ここで安土城跡の散策は終わり、安土山南方の谷間に開けた安土城跡関口大手道へと石段を下り、入口公園に14時30分に着いた。皆さん相当にお疲れの様子で、当初予定の繖山と観音寺行きは時間的にも無理のようである。案の定、今日のハイキングはここまでで、県道を安土駅に向かい全員無事駅前に到着。最後に、本山を代表して総見院の中村住職から御礼の挨拶があり、またツアーリーダーの鈴木住職による万歳三唱が行われ、めでたく今年の「信長まつり」は大盛況に終わった。

（昭和62年11月23日歩く）

今年は織田信長没後四百年余ということでNHK大河ドラマ「信長」もヒットしている。

オリンピックに合わせて開催されたスペイン万国博覧会では、日本館に「安土城」の幻の天守閣が建立展示されたそうです。この記録文は古いものですが、秋の一日、信長を偲んで安土城跡へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

〈参考タイム〉JR京都駅9・52＝JR安土駅10・37〜10・55－武家屋敷跡11・15－セミナリヨ跡11・20－摠見寺本堂跡12・00〜12・45－天守跡13・40－摠見寺仮本堂14・10－大手道14・30－JR安土駅15・05

〈地形図〉二万五千＝近江八幡

〈参考〉

◎参考資料として安土観光協会の「見つめよう安土」から引用させて頂きました

〈問い合わせ〉

安土町観光協会0748（46）3141

新ハイキング選書

【第6巻】再版出来！
花の山を行く
松本雪枝 著
その足跡の広い、山の花をたずねてのしみじみとした紀行文集。
●上製本・B6判・約356頁
定価1650円(税込)
★好評発売中！

【第8巻】
旅がらすの山
富田弘平 著
北日本高、東日本・中日本高、西日本・南日本高、四季と良いコースの50の紀行文を納めている。高い山から、石仏みち、観音を拝み、写生行あり、バラエティーに富んだ内容豊かな読みものとして楽しい本である。
●上製本・B6判368頁・カラー8頁、写真、スケッチ、図版多数
定価1800円(税込)
★三版発売中！

【第9巻】安藤正義／市川哲子／多喙奇雄／富田弘平／松本浩 共著
一等三角点の名山100
北海道から沖縄まで、全国100座の一等三角点の山々の最新の紀行案内文集。詳細なガイド地図入り。
●上製本・B6判335頁
定価1650円(税込)
★重版発売中

【第10巻】
四季の山
沢 聰 著 画と文
春の山、夏の山、秋の山、冬の山と、季節感あふれる山の紀行集で、著者は文筆の人であるが、また、画人の数多くの画は、じっくりと眺めていると、味が伝わってきます。地形図入り、コースタイム入りで、案内書としても役立つ。内容の山は、一般向きの良い山が多い。
●上製本・B6判344頁
定価1650円(税込)
★新刊・好評発売中！

【第11巻】
いで湯浴泉記
大石真人 著
あまり知られていない温泉を調べた記事が多く、また、知られている温泉についても、克明に調べ上げて、すべての泉質の配置図を入れ、単なる温泉の案内書でなく、温泉歩きの長い経験から、話題も豊富に、読みものとしても楽しめる浴泉記になっています。
●上製本・B5判320頁
定価1700円(税込)
★最新刊・好評発売中！

【第12巻】
東海自然歩道を歩く
新ハイ東海自然歩道グループ 後藤典重 編著
歩き続けて2、174、477歩。1、343キロ完歩の記録。
●並製本・A5判112頁
定価1300円(税込)
★最新刊・好評発売中！

【第13巻】
甲斐の山山
小林経雄 著
この本では、甲州の山々を百山、二百山といわず、なるべく多く紹介しようと試みた。個々の山について、それがどんな山かを浮き彫りにさせるため、位置、地形、植生、林相、眺望、山名由来、その山にかかわる歴史などを客観的に記す。
●上製本・B6判360頁
定価1800円(税込)
★最新刊・好評発売中！

【第14巻】
百歳までの山登り
富田弘平 著
北から南から海外までその巨歩の広い著者の話題豊富な紀行と随想集。百歳までの山登りをめざす好読み物
●上製本・B6判269頁
定価1800円(税込)
★最新刊・好評発売中！

●振替でのご注文は送料当社負担
発行所 新ハイキング社
東京都北区滝野川7−6−13
振替東京3−146915
電(03)3915−8110

連載エッセイ

京都北山 ほんまのはなし

北川裕久

第1話 プロローグ

『新ハイキング別冊関西の山』創刊号から6号までの一年間、エリア別徹底研究・京都北山を御愛読下さいましてありがとうございました。

より詳しいガイドをと心掛けてまいりましたが、ハイカーの皆様にとりましては至らぬ部分が沢山あったと思います。これからも一層努力して北山の魅力あるガイドを研究していこうと思っております。今号より新連載で、今まで北山を歩いて得た、いろいろな体験談や不思議な出来事、又、北山の魅力とは何かを追求する、『京都北山 ほんまのはなし』が始まります。どうか、おもしろおかしく笑ってやって下さい。

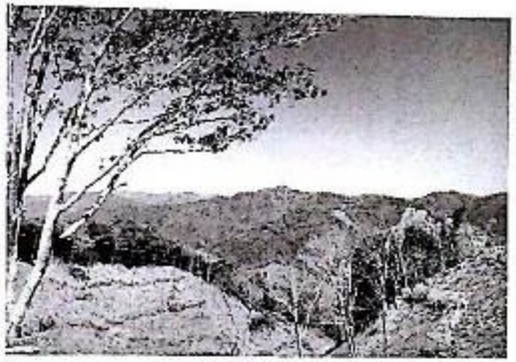
私は、北山を本格的に歩き始めて20年にも満たないヒヨッコで、このような記事やガイドを書く事は少々うしろめたく、登山歴30年や40年の大先輩方には大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、今までとは違った視点で北山を見つめ低山の楽しみ方や常識破りの登山方法まで、ちょっとしたエッセンスのような私流の考え方を頭の片隅にとどめて頂ければ光栄です。

さて、年々、北山を歩く年齢層も幅広くなり、今では以前少なかった10代、20代の若者も自分達の体力にあったプランを組んで広範囲で見かけるようになったし、中、高、老年齢層の方々も増え、クラブやサークル等、活発な活動をされているようだ。

一部の人にマナーの悪さが目立ち、あき缶やゴミが散乱した光景によく出くわす。自分のゴミは自分で持ち帰る、これは山に限らず、人間として当然の行為である。又、トラックで大型ゴミや粗大ゴミを林道の谷の斜面や道路わきに捨てていく不届き者もいる。「美しい山の風景を眺めながら歩いていると突然、目の前に冷蔵庫やテレビが現われる。何故……」これは、百井坂れから百井峠を経て、百井へ通じる道を歩いた時のメモである。人間としてのモラルを完全に守れば、美しい自然はいつまでも私達の前に存在するだろう。

第2話 初めての単独行

一枚の地図を広げ、ゆっくりと時間をかけて等高線の連なりを読んでゆくと谷の様相や尾根の勾配、峠や山頂の展望までがまぶたに浮かび上がってくる。いつの間にか地図上の



皆子山より峰床山を望む

尾根を歩いている自分に出会い、季節の色彩までが見えてくる。

「よし、次はここを歩いてみることにしよう」いつもこれで私の登山は始まる。

私が初めて北山を歩いたのは、小学校の4年生ぐらいだっただろうか。近所の山好きな人と雲ヶ畑の谷沿いを歩いたのを覚えている。場所は松尾谷ではなかったかと思うが23年前の記憶は定かではない。それ以来、何度か雲ヶ畑周辺へ連れていってもらい、高校へ入って初めて一人で計画を立てた。単独行、2泊3日の山旅である。その計画も今から思えば無謀な計画だった。

夏休みの8月上旬、京都バス梅ノ木線の「平」から安曇川沿いに寺谷を溯り皆子山からツボクリ谷を下り、足尾谷を溯行し、尾越へ出る。そして二ノ谷からフジ谷峠を越え、八丁平へ入り、峰床山から尾根伝いに俵坂を経由して「大悲山口」へ出るコースで、時間には充分余裕を見たが、コース状況は全く知らなかった。山行のきっかけは何気なく買った京都北山①・②のエアリアマップを見て、行きたくなったからである。山歩きにおいては全くの素人で、夏の北山がどんな状況なのか想像もつかなかった。おまけに服装といえば半ズボンにストッキング、靴は軽登山靴だったが、上着は半袖（Tシャツ1枚だったかも知れない）。そんな格好でリュックといえば背中に角のようにアルミパイプが突き出たフレームザック。以上のようないわばカナダの高原をトレッキングするようなスタイルで北山のヤブへ突入したのである。

どんな状況になったかは誰でも想像できることだろうからあえて書かないが……。

当時、北山方面へのバスは三条京阪が始発だった。バス待ちの間も他のハイカーからジロジロと白い目で見られていたし、私以外誰一人、半ズボンに半袖という山行の姿は見かけなかった。しかし、今さら後に引けなく「平」で降車の時も、私一人だけだった。後ろで「あんな格好でどこ歩くんや！」という声が聞こえたような気がした。

寺谷の出合いから少しの間は快適に歩けたが、途中から道があやしくなって（今は、明瞭な道となっている）、左側の山腹を登ろうとイバラやトゲのある大きな葉っぱの中をかき分けてゆくと、腕や足はもうズタズタにすり切れ、やっとの思いで尾根にたどり着いた。あの時の涼風は今でも忘れられないひとときであった。爽快感に浸ったのも束の間、大変なことに気がついた。飲食用の水を汲んでいないのである。もう一度あのヤブを下って再び登るのはまっぴらごめんだ。しかし水無しではつらいものがあった。耳を澄ませば谷川のせせらぎがはるか下方から聞こえてくる。

私は少し休んで水を汲みに下ることを決意した。ザックの荷物は尾根に残して、ポリタンクを肩から下げ、支尾根を少し下り、そこからヤブの少なそうな所を見計らって一気に谷沿いへ下る。2ℓのポリタンクに水を満々と満たし、再び支尾根へと登ってゆくが、足

のすり傷が汗でヒリヒリと痛く、何度も立ち止まってヤブに身をうずくめる。

もう、とっくに昼は過ぎ、時計は14時近くを指していたように記憶する。

そして、ここで二度目の失敗。残してきたザックが見あたらない。たしか、切り株の三つ並んだ所に置いてきたが、それがどの辺だったか全くわからなくなってしまった。支尾根を少し登ったり、又後に戻ったりで

皆子山より比良武奈ヶ岳を望む

（参考）皆子山付近略図

尾根に着いてから約1時間ぐらいは探した。

そこは、尾根上ではなく谷へ10m程下った地点だった。ここからいくら急いでも山頂まで1時間30分、昼食もとらずにひたすら尾根を登り、寺谷の源頭部を見ると、寺谷からはっきりとした道が登ってきているではないか。空はなんだか今にも崩れそうな気配で、17時前、ようやく皆子山の山頂に辿り着いた。

今日の予定は足尾谷の谷筋で一泊する予定だったが、時間的にも体力的にも、もう限界だった。狭い山頂に2人用のテントを設営し、昼食とも言えぬ夕食を作り始めた時、大粒の雨が一気に降り掛かってきた。夕食も何もかも、テントの中へ持って入るが、安物のテントのため縫い目からどんどん雨が入ってくるし、風も強くなっておちおちと食事をする暇もない。コッヘルや皿、水筒とあらゆる容器で雨を受け、19時頃にはどうにか落ち着いた。

あたりは薄暗くなり、夕食をガムシャラに食べ終えると雨水を受けた容器の水を全部集めてタオルを浸し、腕や足を拭う。すり傷だらけの身体は痛さと精神的な苦痛で明日の予定をどう変えるかなど、考える余力もなかった。

ランタンの明かりの下でラジオを聞くと、ニュースが流れてきた。あの時のニュースだけは何故かよく覚えている。日光の寺で飼育していたトラが逃げ出したというニュースだった。ラジオを聞きながら、いつの間にか疲れて眠ってしまった。夜中、テントの外をガサガサと這い廻る音で目が覚め、そっと外を覗くとどうやらネズミらしかった。

神経が高ぶり、寝られぬ間に夜が明け、翌朝5時にテントを撤収した。簡単な食事を終え、笹の急斜面をツボクリ谷へと下る。足は筋肉疲労でガクガク、頭もボーッとして何度も急坂で転倒。うちみ、ねんざ、と散々な目にあって、ツボクリ谷の出合いに着く。

ここで私は、今回の予定を断念した。精神

的にもかなりの苦痛を帯びていた私は『足尾谷橋』からバスに乗って帰ることに決めた。
そして、ツボクリ谷の滝の岩場で再び転倒というよりも北山には不向きのフレームザックの頂部が木に引っ掛って後ろへ倒されるような形となり、滝壺の下流へ転落。幸いにも打ち所がよかったのか、命には別状なかったが、しばらくは立ち上がることができなかった。フラフラのヘトヘトで相変わらず足元に絡んでくるイバラのトゲは痛い。
私は、雨具のズボンを取り出してはいてみた。なるほどトゲの痛みは感じないが、ゴム引きの為、中はサウナのようで、汗がすり傷にしみて、これもまたたまらなく痛い。
足尾谷の出合いで思いきって裸足になり太ももまで渓流の水に浸す。これが気持ちよく、しばらく童心に返って谷川で遊ぶ。
バスの時刻は念のため事前に調べておいたので、うまく京都バスに乗車できた。
帰りの京阪電車の中では、みんなが私の手足の傷をジロジロと見て、何かコソコソと話しているようで最後までいやな気分だった。
この山行において私の北山狂いは始まった。数々の初歩的な失敗を重ね、自分なりにひとつずつ改善して、精神的にも余裕がもてるようになったが、今だに忘れものはよくある。
マイカー利用の時に登山靴を忘れ、スニーカーで山を歩いたことや、コンパス、地図を忘れ、勘で歩いて道に迷い、大幅に帰宅時間が遅れて家族に心配をかけたこと。後者は、遭難にもつながることなので絶対にあってはならないミスである。
山歩きにおいていろいろな場面に遭遇すれば、それらを解決することによって、自ずと精神的な面が鍛えられ、判断力が強化されてゆくように思う。グループ山行の時でも自分自身で判断することを心掛けていけばやがて単独行で山を歩きたくなるに違いない。ここで次章の〝道草登山〟を読んでいただき、何かの参考にでもなればと思う。

第3話
道草登山のすすめ

私の山行計画は、地図を眺めることから始まるが、結構いい加減な計画もある。
ある程度、方面だけを決めて見知らぬ谷や尾根筋を歩いて目的地もなく、時間だけを計算して引き返すか、既存の山道に戻り、コースを繋いでバス停まで下山するといった〝みちくさ登山〟である。初心者にはあまりすすめられないが、常に新しいものを発見し、貴重な体験に結びつくのも決まって道草登山の時である。私自身、団体行動は好きではないし、制約された登山は料理店のメニューを見てオーダーするようなもので、オリジナル性がまったくない。
こんな事を書いたら団体登山を計画されている山行会の方々には申し訳ないが、目的の山を深く理解しようとするならば、私は少人数（3名ぐらいまで）の道草登山をすすめる。みんなで山を歩くことを楽しみ、ワイワイやることで仲間との親睦を深めるような登山ならば団体登山もよいと思うが。
要するに人それぞれで考え方も違えば山行形態も感性も違い、山に対する価値観は十人十色である。自分自身が歩いていて、やはり楽しい山行ができれば自分流ということになるだろう。最近、100～500名ぐらいの超大型団体が北山の細い山道を延々と歩く光景によく出くわす。ある程度、間隔を開けていれば問題ないが、隙間もないぐらいに詰めて、すれ違うことすらできなく、単独行や少人数のパーティーは余儀なく山の斜面に登らなければならなくなったり、谷川へ降りなければならなくなったりする。このような超大型団体山行は規制（自主的に）するべきだと

私は思うが、読者の方々はどう思われているか、新ハイ関西まで、このテーマについて意見を投書してもらいたい。一つの山をみんなで楽しむには、やはり一定のルールなり、個人一人一人のモラルが必要である。

第4話
思い出深い山行とは

私は年間平均30日ぐらいの一般的な山行日数であるが、一時期年間150日を越える山行をした年がある。ある出版社からガイドブックの依頼を受け、悩みに悩んで当時の会社を退職し、調査、執筆に専念した一年間であった。二日に一回の山行で北山を歩き廻った。
しかし、あまりよい思い出に残るような山行はなかった。計画的な山行ばかりで、おまけにコースタイムや距離、コース状況までを調べ、自らが楽しむ山行とはほど遠いものがあった。
だが、一つのガイドブックを作りあげ、自分の見てきたすべてのものをこの一冊にまとめあげ、如何に北山という山域を興味深く知ってもらえるかということがひとつの喜びでもあった。今まで自分が歩いてきた北山の道を一人でも多く、同じ視点で捕えてもらい、北山のもつ独特の世界に浸り、自分なりに新しい魅力を発見して思い出深い山行にしてほしいと私はいつも願っている。
思い出深い山行といえば何かアクシデントがあったときや普段は見られない美しい光景に出会った時等、自分から作りあげることの出来ない事があった時に限られる。そのような状況に出会うには、やはり単独の山行では確率がきわめて少ない。例えば、雨の日の山行等は、普段見られない美しい山の風景が展開し、必らずや心に残る風景となるだろう。
また、夕暮れ遅く下山するのも思い出深い

山と高原地図シリーズ

定価 各700円（税込）

★1 北アルプス総図	★34 飯豊山
2 白馬岳	35 朝日・出羽三山
★3 鹿島槍・黒部湖	36 鳥海山
4 剱・立山	★37 蔵王 面白山・船形山
★5 上高地・槍・穂高	★38 栗駒・早池峰
★6 乗鞍高原	39 八幡平 岩手山・秋田駒
7 御嶽	40 十和田湖 八甲田・岩木山
8 伊那路 中央・南アルプス総図	★41 ニセコ・羊蹄山
9 木曽駒・空木岳	42 大雪山・十勝岳
10 甲斐駒・北岳	43 白山
11 塩見・赤石・聖岳	44 霊仙・伊吹・藤原
12 妙高・戸隠	45 御在所・鎌ヶ岳
13 志賀高原・草津	46 比良山系
14 軽井沢・浅間	47 京都北山1
★15 西上州・妙義	48 京都北山2
16 美ヶ原・霧ヶ峰	49 京都西山
★17 八ヶ岳・蓼科	50 北摂の山々
18 富士・富士五湖	51 六甲・摩耶・有馬
★19 箱根	52 葛城高原・二上山
★20 伊豆	53 金剛山・岩湧山
21 丹沢	54 紀泉高原
★22 高尾・陣馬	55 奥高野
23 大菩薩連嶺	★56 大峰山脈
24 奥多摩	★57 大台ヶ原・大杉谷・高見山
25 奥武蔵・秩父	58 赤目・倶留尊高原
26 奥秩父1 雲取山・両神山	★59 氷ノ山 鉢伏・扇ノ山
27 奥秩父2 金峰山・甲武信	60 大山・蒜山高原
★28 谷川岳 苗場山・武尊山	61 四国剣山
29 越後三山 巻機山・守門岳	62 石鎚山
★30 尾瀬	★63 福岡の山々
31 日光 男体山・奥日光	64 九重・阿蘇
★32 那須・塩原	65 祖母・傾
33 磐梯・吾妻・安達太良	66 屋久島 種子島

（★印は新仕様の地図です）

＊昭文社の「山と高原地図」は年版として毎年春頃発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
＊昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当まで お気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・湘和・立川 名古屋・金沢・京都・広島・福岡

山行となるだろうが、バスの便を頭に入れ、よほど山慣れてからにして頂きたい。むしろ変わった計画で無理のない山行が出来れば、思い出深い山行となるだろう。
どんな山でも余裕があれば一泊して帰ると又、新しい発見が出来るし、少々の寄り道は山の魅力を探るうえでも重要なことだと思う。
初心者の方もある程度山に慣れて、北山の魅力を感じはじめたら、私流の山歩き〝道草登山〟をお試しあれ！

第5話　北山の魅力は12月にある

何故、北山ばかりを歩くのか、北山のどこにそんな魅力を感じるのかという素朴な質問をよく受ける。決まって私はこう答えている。人間の生活と歴史、文化の流れの接点にある京都らしい山だから好きだという、要するに古都の歴史を秘めた人間くさい山とでも言うほうがわかりやすいだろう。
山のもつ魅力の感じ方は人それぞれの感性によって違う。私は、特に12月の北山が好きだ。晩秋の紅葉で賑わった山も葉を落とし、人影も少なく静寂感が漂う。この淋しく、ノスタルジックな里の風景が北山にはよく似合う。数年前の12月初旬、朽木の根来坂から百里ヶ岳を目指しての途中、峠付近は閑寂な風景が続く……。
冷たい北風が吹き抜ける中、一匹の鹿が銀笛の如くピーッと甲高い声で鳴いた。辺りの山にこだまするがすぐに風声が残響をかき消した。
あの時の数秒間の音のドラマは、私の感性と相まって印象深い山となった。
私は、北山をあえて閑寂な印象としてとらえており、北山にはそのような要素が多大に存在する。だから私は北山のノスタルジックな風景を眺め、センチメンタルな雰囲気に浸るのが好きで、何度も出掛けるのだと思う。
私言葉、ねくら人間なのかも知れないが、北山はいつも私の心を捕えて放さない。
12月の北山の道は、淋しく悲しい。
やがて迎える白い季節の前に、もう一度あの山に足跡を残そうと思う。

【この花・この草】

アケビ　(*Akebia quinata* Decne)

アケビ科　(*Lardizabalaceae*)

デパートの果物売場で立派な箱に詰められたアケビを発見！　今ではこんなものまでが贈り物になるのかと、びっくりしてしまいました。
秋になると、各地の山野で赤紫色にぱっくり割れたアケビの実を見掛けることがあります。果実は、そのまま生食用になりますが、焼いたり蒸したりして肉料理の付け合わせにもなかなかよいものです。また、果皮や若葉も食用になります。
アケビのつると言えば、その柔軟性を利用した籠などの細工物が、すぐに思い浮かびますが、そのつる性の茎を乾燥・切断したものを生薬では木通（もくつう）といい、「神農本草経」の中品にもあげられています。
木通はヘデラゲニンおよびトリテルペンカルボン酸をゲニンとするサポニンを含み、そのメタノールエキスには抗炎症・胃液分泌抑制作用がありますが、漢方では主に消炎性利尿・通経・鎮痛などの目的で配合されています。　㊟

京都北山　やぶ漕ぎ痛快山行記　(六)

初冬、落ち葉を踏んで

伊賀谷右俣から八丁平・峰床山

京都北山グループ

集合地、出町柳駅へ自転車で走る。ユリカモメの群れが今朝も御薗橋付近の賀茂川の御薗橋へと早朝から出勤している。鳥の動きと、空模様を睨んで判断では、下山までもつと思う曇り空。降雨率午前中は20%、午後は40%の予報。比良梅ノ木行きバス停は60人もの登山者で混雑、臨時便も増発されたが我々6名は定時便に乗車する。山端からSさんら3人が乗車合流し9人のメンバーとなる。一方、Yさんらのメンバーは大悲山口からナメラ谷を登り、峰床山頂上で出会いの集中登山の形態をとる。
葛川中村学校前バス停で下車したのは立命大ワンホの八丁平幕営組の6人と、他に8人程の登山者だけで我々を入れても今日の八丁平は無人に等しい。静かな山行が期待できそうだ。
ここで標高は300㍍。9時出発、伊賀谷林道を登る。昨夜から早朝にかけて時雨が落ちたのか、林道が湿り、両側の草も濡れているが夜露の現象ではない。オグロ坂峠からの尾根の谷渡ぎは濡れるかも？　と嫌な予感。しかし谷筋の雑木の黄紅葉の見ごろは今日が最後とみんなで楽しみながら林道をつめる。予定時間通り右俣の丸木橋に着く。新しい橋も架設され、わたりやすく手入れされありがたい。右岸にわたり今日始めての小休止をとる。
ここでの標高は500㍍、八丁中村乗越が900㍍、その差400㍍の登り一方の歩行が苦でもあり、また楽しみでもある。右俣谷に沿って500㍍程登り進むとマイヤ谷オグロ谷からの右俣の谷筋と左のヤセ尾根の急登道の分かれに［京都一周コース↓八丁］の道標が新しく立っている。以前は、左の急登道がよく踏まれ何度も使ったが、右の道は造林公社の仕事道で、イバラの下生えでいやな道だった。よく見るとかなり手入れがしてあるので

晩秋の中村乗越

今日は右の谷筋道を案内して進む。造林のため伐採された右俣谷筋は明るい。左岸右岸と新設の丸木橋をわたり、湧水のある杉林の中で第二回目の小休止。Sさんの奥さんから富士っこりんごのおやつを頂く。台風12号にも耐えたりんごの甘さが、いっそうおいしく感じる。

ここから谷筋を離れジグザグの急登で高度を稼ぐ。伊賀谷山目の前のマイヤ岳935㍍と高度を稼ぐように登り進むと、造林公社の手による植樹も10年生になるのか、背丈を越すほどに成長している。以前繁茂していたイバラ下草も払われて、道も歩幅いっぱいに広げられ、手入れされて歩きやすい道になっている。このほうをメインに推薦したい。薄ガスの中に比良蓬莱山、権現山が見える。晴天ならば、さぞかし山並みの美しい尾根コースだと思う。

八丁平にて

乗っ越しの稜線の木々も葉が落ち、見通しがよい。方向確認が容易にできてこれからの山歩きは山好き者を喜ばせるシーズンだ。途中山肌から樋を引き、清水の湧く水場も新設されている。誰にも会わない静かな道、左へ大きく廻り込んで、先程の急登ヤセ尾根コースと合流する支尾根に出る。葉を落とした大木に宿り木の固まりが鳥の巣のように見える。この現象は高度800㍍以上を示す地帯のものだ。ここで第三回目の休憩。

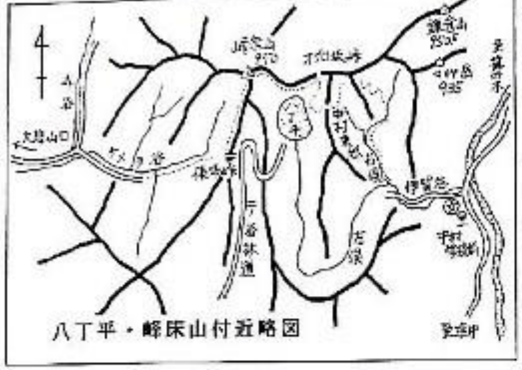
中村乗越へのトラバース道もカサカサに乾いた枯れ葉の絨毯道、スイスイと足が動いてくれる。頂上付近は時雨も落ちなかったのだろうか。時雨は北山名物だが。乗っ越しに仕事休憩小屋のような建物、おかしな小屋だとよく見ればトイレ小屋、八丁平も有名?になれば、女性用にここまでの配慮。山も女性愛好者が増えた傾向だと感じた。

八丁平への下り道は往も幅2㍍以上二ノ谷の三差路まで切り払われ、ここも枯れ葉の絨緞道、木々の葉もすっかり散り果て、所々に天然杉の大木が蒼然くそびえる。静寂な八丁平湿原の姿は、広い北山でも特色のある景観である。湿原クラガリ谷への道を左に見送り、オグロ坂へと歩を運め、予定時間通り峠に到着。峠のお地蔵さんが静かに微笑んでいる。鎌倉山への縦走路の状態を見に久多側に回って見る。笹が茂るが以前より利用者が増えたのか踏み跡がしっかりしている。また例会のコースに組みたいものだ。オグロ谷側から林道工事の機械音が遠雷のように響いてくるのは頂けない。湿原の保護と開発の矛盾がここにもある。

Yさんたちとの合流時間もあるので峰床への稜線尾根に乗って先を急ぐ。ここも幅1㍍以上両側の熊笹が切り払われ、ルンルン道。紅葉の葉つきが頑丈なせいか、所々に真っ赤な色が残り、我々を歓迎してくれる。新緑の季節はブナ、ミズナラの素晴らしい尾根道、初冬落葉シーズンの樹林もまた一興。続いコブを二つほど登り返して、峰床山(970㍍)2等三角点頂上に飛び出した。11時45分。Yさんら、ナメラ谷組はまだ到着していない。

今頃、急登で頑張っていることと思う。到着されたら暖をとってもらおうと焚き火の準備にかかる。コンロがうなりお昼の献立が仕上がるころナメラ谷グループ9人の顔が揃い、にぎやかな昼食タイムとなった。

頂上から遠望も利く標高となり、花背峠の電波塔、雲取山、桑谷山の双耳峰、この間ヤブ漕ぎをしたチセロ谷山の稜線、小野村割岳の頂き、府下最高峰の皆子山とおなじみの山々を眺める。



八丁平・峰床山付近略図

清掃、火の始末の確認をおえ、予定通り13時30分頂上を出発し、俵坂峠へと降りる。災害電波塔まで30分と下りは早い。しかし下山には事故が起こりやすい。油断は禁物と電波塔で休憩をとる。アラ谷には電波塔建設工事の林道、二ノ谷林道と林道交差のノリ面落としの痛々しい赤ガレの姿、開発か保護かと問題の谷にしばし見とれる。

帰りはYさん、Tさんのワゴン車に乗せていただけるとのこと、ご厚意に感謝。休憩時間をゆっくりとって、最後のナメラ谷道の急降下に備え足の調整をする。ナメラ谷道は足幅だけの笹の急斜面トラバース道、慎重に下る。ナメラ谷源頭付近も雑木の二次林、黄紅葉の時期は過ぎたが明るい谷だ。コケ方も上手になり、コケた人も無事林道終点に下山。ここで標高500㍍、結局のところ標高差470㍍の登り降りの峰床山長距離コースを終える。車に乗せて頂き、大悲山口バス乗車時間には帰宅できるなんて思ってもいなかった。集中登山のお陰と感謝感激雨アラレ。

帰宅後雨もシボシボで、これも旧花背峠のお地蔵参りのご利益、良く拝んで頂きありがとうさん。

(平成3年11月23日歩く)

《参考タイム》葛川中村学校前9・00－伊賀谷右俣出合9・30－中村乗越10・45－オグロ坂峠11・00－峰床山11・45～13・30－俵坂峠14・00－大悲山口15・45

《地形図》二万五千＝花背

昭文社「48京都北山2」

(記録・出口董次)

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

足にピッタリ!
登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5768
FAX (075) 231-0318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

文学歴史探訪ハイク⑦

紅葉の多武峰・談山神社

松永恵一

紅葉
かがやける白雲ありて照紅葉
大紅葉燃え上らんとしつゝあり　高浜虚子

自然が生み出す芸術はすばらしい。桜、楓の落葉樹の紅葉。鮮やかな緑を失わない常緑樹の老杉とのバランスが見事だ。空の青さに負けじと、文字どおり錦秋を織りなす。

まばゆいばかりの紅葉の海に、檜皮葺きの重厚味あふれる十三重塔や、鮮やかな朱塗りが施された本殿、拝殿などが見えかくれする。秋の多武峰・談山神社にたたずむと、季節の変わり目の風情を肌で感じることができる。御破裂山のキャンバスに、絵の具を散らしたように色づいてゆく紅葉。これほど繊細にして深遠な秋にはなかなか出会えない。

多武峰へは、桜井駅からバスが便利である。与謝野晶子は、人力車を雇って7キロの山道を登って行った。

「桜井駅で汽車を下りて、三台雇うた車には、どれも犬の先引が付く。わたしは其れを見るのが厭さに扇で顔を隠しながら乗つてゐた。塔の峰の坂の上り口までは二時間ばかり掛かつて着いた」（『畿内見物』）

多武峰街道に大きな鳥居が残る。この談山神社一の鳥居は享保七年（1722）建立で、約6㍍の高さがある。この鳥居のそばにある石碑は談山神社まで一町ごとにたてられた五二基の町石の一番目のもの。この多武峰街道は、吉野詣でや山上参りの人々でにぎわった道で、源義経や『笈の小文』の松尾芭蕉、『菅笠日記』の本居宣長らが歩いた道だ。

談山神社一の鳥居

「神社と相対する南の丘に上る。此処から眺めると、談山の山腹に簇々と立つ大杉や老松の深い緑鮮やかな翠は、燃える様な紅葉や希に銀杏の黄をまじへて、其間から、神社の丹塔堂閣が見え隠れする景色は、極彩色の土佐絵である」と、大正二年の晩秋に訪れた徳富蘆花は、『大和路』に記す。

秋の山は自然美術館だ。が、この美術館はあっという間に閉館してしまう。

多武峰・談山神社

飛鳥の里の東南にあたる多武峰・談山神社は藤原鎌足を祀る壮麗な古社である。「西の日光」と呼ばれ老杉の深く茂る御破裂山を背に朱塗りの美しい社殿が建ち並び、鎌足の廟所も山中にある。『多武峰略記』によると、「大化改新とその後の律令国家の形成に大功のあった藤原鎌足は天智天皇八年（669）に没し、遺骸は摂津阿威山に葬られた。白鳳七年（679）に、鎌足の長男定慧が唐における仏道修行から帰ると、弟の不比等と相談し、父鎌足が中大兄皇子（のちの天智天皇）と蘇我入鹿誅殺の密談をしたという記念の場所、カタライの峰「談山」に改葬し、その上に十三重の塔を建て、妙楽寺と号した」という。塔の峰とよばれたが、奈良時代の地名を二字で書く制度により、多武の二字になり、多武峰になったという。

しかし、『延喜式』には「多武岑墓として贈太政大臣淡海公云々」とあり、藤原不比等の墓と考えられ、『略記』の記事をそのまま認めることもできない。摂津阿威山、現在の大阪府茨木市と高槻市にまたがる阿武山の山頂付近で、昭和九年4月に七世紀の古墳がみつかった。漆塗りの棺の中は、まばゆいばかりの金糸を身につけ、珠玉をちりばめた枕をした、ミイラ状になった遺体が残っていた。当時から藤原鎌足ではないかとみられたが、最近のハイテク考古学の進歩により、昭和初期のエックス線写真が解析され、大織冠を身につけた鎌足であることが明らかにされた。（『蘇った古代の木乃伊』小学館1988刊）

「金の司は多武峰」という諺がある。江戸時代、多武峰の坊はいずれも金持ちで、付近の町家や山林業者に高利の金を貸し、南大和第一の大資本家であった。藤原氏の信仰を除いては、民衆の支持や信仰に期待がもてなかった。そこで考えだしたのが、一種の金融業であった。

拝殿では、蹴鞠祭（11月第2日曜）の時に使う鹿皮でできた鞠や、首をはねられた入鹿、その血をふき出した首が空に飛んでいるところがリアルに描かれている『多武峰縁起絵巻』などを展示してあるが、なかでもめずらしいのは、10月第2日曜日の『嘉吉祭』に供える「百味飲食」と称する神饌がある。米、栗、柿、椎の実などの野の幸や山の幸を塔の形に精妙に盛り、高杯にのせて神前にお供えする。3種の色に染めた米粒3000粒余りを使って、模様を描いてあるのにはびっくり。拝殿は舞台造りになっているので、伏して桜楓の梢、仰いで南山の緑を望むことができる。

多武峰鳴動・大織冠像破裂

なんとも奇妙な判断のできない騒ぎがあった。文武天皇の大宝元年（701）、近江国の香見丸という彫工が造った大織冠像（藤原鎌足像）がある。国家に、あるいは藤原氏にかかわる凶事がおこる前に、十三重塔の背後の「御破裂山が鳴動し、大織冠像に亀裂が走る」というのである。「立ち聞きの芝」といって、山の鳴動を聞く場所が四カ所ある。鳴動を聞くと、おそるおそる扉をひらいて、その破裂の場所と寸法をたしかめ、ただちに朝廷に報告される。朝廷は、すわ一大事と、勅使を多武峰に送り、神前にたくさんのみてぐら（幣帛）を奉って、鎮護国家を祈願する。破裂した御像はもとどおりになって、無事に一件落着。

記録では醍醐天皇の昌泰元年（898）2月7日の鳴動がもっとも古く、以来慶長十三年（1608）までの間に35回の鳴動・破裂があったという。ありがたい神のお告げも、ごくたまにあるのだったらありがたいのだが、こうしばしばあるとありがたみはうすれてしまったのか、御破裂はやめになってしまった。徳川時代になって、かんじんの氏子の藤原氏が没落してしまっては、やりがいがなくなったからであろうか。

紅葉の多武峰談山神社

コース概観

今回は、桜井駅から吉野詣でや山上参りの人々でにぎわった多武峰街道をバスで登り、「西の日光」とも呼ばれる紅葉の多武峰談山神社に詣でたのち、背後の御破裂山に登り、西大門跡から急な山道を古代史のロマンに満ちた飛鳥の里へと歩く。冬野川の瀬音を聞きながら下る道には、気都倭既神社や石舞台古墳などの史跡が点在する。

JR・近鉄桜井駅で下車。多武峰行きのバスに揺られて25分、終点の手前不動滝で下車。（多武峰行きのバスは近鉄側ではなくJR側の出口、南出口前から出ている）

杉の古木の根元に破不動尊の磨崖仏がある。大きな石に不動明王が刻まれ、中央から割れている。慶長十三年（1608）御破裂山が鳴動したとき割れたと伝える。傍らに湯川秀樹書の古事記歌碑がある。この付近は不動滝を中心とした、渓谷の行場になっていた。

古くから門前町として栄えた八井内（やいない）の集落を進むと、左に子安地蔵二尊の堂があり、右に青銅の擬宝珠、朱塗りの欄干のある屋根付きの橋、屋形橋が人目をひく。橋を渡り、右は老木、左は崖の道を進むと、東大門がある。飾り鋲などがついている両袖付高麗門で、城門のような厳しさがある。女人堂の碑がある。一山が女人禁制であった名残りだ。万葉歌碑がたたずむ。門を入ると「下乗」と大きく刻んだ石柱が立つ。御家流の祖、尊円法親王の筆と伝える。杉並木の参道をのぼって行く。

深々と茂る樹木に囲まれ、体全体においしい空気が入り込む。緑と一体になって歩いているようで、なんとも気持ちがよい。

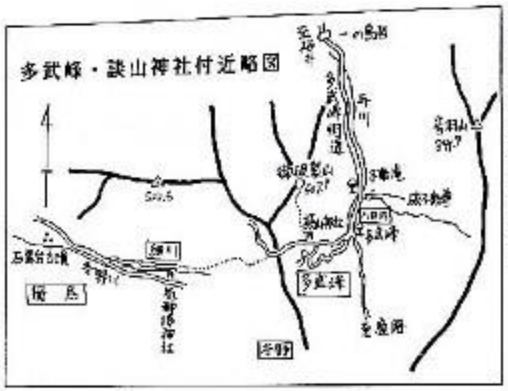
ふと目にとまった大木。なんと力強いことか。談山に育ったことを誇りに思うかのようにまっすぐに幹を伸ばし枝を広げている。

左に高さ3メートルの摩尼輪塔（まにりんとう）が立っている。八角柱の太い塔身の北面上方に、丸形を大きくつくり出し、梵字が刻まれ、大きな石の屋根がのっている。塔身に乾元二年（1303）の刻銘がある。桜井駅から南約1キロの地点に建つ一の鳥居から、一町ごとに建てられた町石の最後のものである。

やがて右に後醍醐天皇寄進と伝える元徳三年（1331）二月日の銘が読める石灯籠と、談山神社の神殿への百三十段の石段が現われる。春なら桜が、秋本番のこれからはまばゆいばかりの紅葉が、しばし足の疲れを忘れさせてくれる。

石段を上りつめた右手に、朱塗り舞台造りの拝殿を持つ本殿。構木入の春日造りで、極彩色が施されている。左手下に十三重塔がある。総高17・5メートル。世界唯一の木造十三層の檜皮葺きの重厚味あふれるこの塔は、大化改新（645）で知られる藤原鎌足の供養として建てられたと伝えられる。

冷んやりした清涼な空気。鳥の声だけが響きわたる静寂の中に、背後の山を突き抜けるようにまっすぐ空に向かい、十分に威容をみせる十三重塔。いくつもの時代をこえて、多くの戦火と社会の激変を見つめてきた。



塔の背後の山へは、権殿と比叡神社との間の小径を登る。中大兄皇子と藤原鎌足とが蘇我入鹿誅殺の密談をしたという伝説の場所「談所の森（だんじょのもり）」を通り、コンクリート作りの小屋から、道を右にとり、急坂を登り、神社裏の杉の植林帯の尾根を北に進むと、鎌足公廟所（びょうしょ）にたどりつく。石段の上に鳥居があり、松の古木に囲まれた円墳である。

山中ゆえか周辺はひっそりと静まり返っている。御破裂山（607・7メートル）と呼ばれるのは、古くより天下に異変が起こる時に、山が鳴動したことから名づけられたのだという。そう思いつつ古墳に向かって心静かにいるとなんとなく霊気が感じられるようだ。

多武峰西大門跡へ向かう。門は残っていないが、城砦跡のような石垣が残る。左に行くと冬野を経て竜在峠（りゅうざいとうげ）へと続く。右の道が飛鳥へ。ここから道は下りになる。少し行くと、杉の床柱を作る作業場があり、石仏が並んでいる。雑木、竹林の細い山道にはいる。湿気をおびた涼やかな空気が、体にまといつく。岩に手をかけて下りるきつい勾配もある。足元が定まらない。ほの暗い影におおわれていた道が、ふっと明るくなった。飛鳥の里が眼下に広がり、遠く金剛・葛城・二上山が望まれる。

道が舗装路に変わると、そこは気都倭既神社。昼でも薄暗い森は、茂古の森（もこのもり）と呼ばれる。おもしろい伝承がある。大化改新で切られた蘇我入鹿の首は、形相すさまじくして憎き鎌足を追いかけた。鎌足は必死になって逃げた。この森に辿り着き「ここまではもうこんだろう」とひと息ついた。鎌足が腰を降ろしたという岩は今も境内に残る。

のどかな田園風景を楽しみながら、冬野川に沿う緩やかな下り道を行くと飛鳥歴史公園に出る。飛鳥のシンボル石舞台古墳があり、春は桜、秋はコスモス、彼岸花、ススキがみごと。古墳は蘇我馬子（うまこ）の墓ともいわれるが、いまひとつよくわからない。石舞台の名は、旅芸人が舞台に使ったからとも、女にばけた狐が舞ったためともいわれる。

〈コースタイム〉桜井駅（バス25分）不動滝（20分）談山神社（25分）御破裂山（50分）気都倭既神社（40分）石舞台古墳（バス20分）近鉄橿原神宮前駅

〈費用〉 近鉄上本町〜桜井駅　540円
桜井駅〜不動滝　360円
近鉄橿原神宮前駅〜阿倍野橋駅　540円
石舞台前〜橿原神宮前　280円

〈地形図〉 2万5千＝桜井・畝傍山

〈問い合わせ先〉
談山神社　07444（9）0001

〈参考〉
本殿拝観時間　9時〜16時30分。
拝観料　大人400円、小人200円
11月第2日曜日には蹴鞠祭りが行なわれ、当日はめずらしい「蹴鞠」が再現される。
多武峰観光ホテル07444（9）0111　5階のレストランから、紅葉に包まれた談山神社を一望できる。

たのしい山歩き

尾瀬雑考⑦

「白い尾瀬」

松下 満

尾瀬の冬は早く来る。そして長い。通年営業の長蔵小屋を除いて、他の山小屋は早いところで10月中旬頃より、遅い小屋でも11月3日をすぎると冬期休業に入る。尾瀬は国内でも有数の豪雪地で、場所によっては5〜6mの積雪を見る。戦前に建てられた山小屋の柱や梁を見ればその豪雪ぶりがうかがえる。

小屋閉めでは、畳をあげ、戸障子を外し中央部の部屋に全て収納する。窓の外側には板を当て雪の侵入を防ぐが、どうしても隙間ができる。極寒の尾瀬に降る雪は粉雪が多く、吹雪のときは打ちつけた板や雨戸の隙間から粉雪が入り部屋の天井にはりつき、春と共に解け天井板に雨漏りのようなシミを付ける。こんな事情を知らない人は雨漏りのする部屋に通されたと不満を漏らすとか。

積雪の量により屋根の雪おろしをする。周辺の小屋と共同で行うが、12月・1月の雪おろしは屋根からポン〳〵と落とすだけなので楽だが、降雪の多い年の2月・3月の雪おろしは大変である。軒先まで雪がありスノーダンプ等で遠くまで捨てに行かねばならない。

秋の閉山とともに、尾瀬ヶ原にある橋のすべては踏み板を外され鉄骨だけになる。ヨッピの吊り橋も鉄骨だけになるが、その上に積もる雪が山のようになり、やはり除雪をしなければならない。この光景は鳩待峠の休憩所内に掲示してある写真で見ることができる。

尾瀬ヶ原下田代地区の原に面した小屋では屋根に上がって雪おろしのひととき、手を休めて尾瀬ヶ原に目を転ずると、周囲の山からキツネ等の動物が原に散歩？に出てくる光景がみられておもしろい。水場を探して、水を呑んだらまた元の巣へ帰ってゆく。人間だったらそばの雪を口にすれば喉の渇きを癒すことができるのに……。

一方、至仏山に目を向けると前夜に降った雪であろうか、稜線北面に積もった雪が強い北風に舞いながらモウ〳〵たる雪けむりを上げている。その行き先は南斜面。初夏の水芭蕉のシーズンに見られる至仏山の残雪の謎はこれで解けるというものである。

冬期、燧ヶ岳に登山するパーティーがある。尾瀬沼畔で年間営業している長蔵小屋を基地としての行動になる。十数年前、四人パーティーが入山し、長蔵小屋を早朝に出発し燧ヶ岳にアタックを開始したが、そのうち一人が体の不調で小屋に戻り床に入っていたが、そのまま死亡するという痛ましい事故が発生した。検死をうけるまでの一週間余り、同僚と山小屋の人が交替で不寝番を余儀なくされたとのことである。

尾瀬沼も結氷した寒さの厳しい夜には、信州諏訪湖で発生する「お御渡り」と同じ自然現象が起きるとか。

春、4月28日より群馬県側の大清水・鳩待峠へのバスの運行が再開される。それに合わせて山小屋も開業するが、それ以前にしておかなければならない仕事がある。7月半ばまでの米・味噌・醤油・缶飲料など食料、発電機の燃料、プロパンガス等の搬入、また小屋の修理等大変である。長くて厳しい白一色の尾瀬の冬が今年も始まろうとしている。

関 西 周 辺

晩 秋 の 山

特選　コースガイド

1 高野町石道　3 大江山
2 西お多福山　4 天和山と高城山

晩秋の道（比良）

山々が紅葉し、やがて落ち葉となって山道を埋め尽くす。晩秋の山道を歩いているとなにかが心にしみてくる。

比良は杉や檜の常緑樹が少なく、ほとんどが落葉樹などの自然林に覆われているため、みごとなほどに紅葉が美しい。点在する常緑樹とのコントラストがまるで油絵を見ているようだ。晩秋になると、どうしても比良に行きたくなってくる。比良が一番はなやかな時だから。

ノタノホリから堂満岳への堂満東稜道は大好きな道だ。登りは長くてきついが紅葉は最高にきれいだ。イン谷口から釈迦岳への大津ワンゲル道も落ち葉の道だ。北小松から寒風峠越えで比良ヶ滝へ下る道も落ち葉の積もった絨毯の道。八淵滝からオガサカ道もよいが、大摺鉢で右へ丸木橋を渡って山腹の道をイブルキノコバへゆく。静かで晩秋の良さを感じる道だ。坊村からなら白滝谷を夫婦滝へ、そこから白滝山の池めぐりで遊ぶのもよいが、木戸峠を越すと素晴らしいクロトノハゲの展望が待っている。天狗杉から志賀駅へ下るもよし、少々笹ヤブがうるさいがゴンドラ下の展望台から眺めを楽しんで、打見山からゴンドラで下山すれば楽である。力量に応じて縦走コースも自在に選ぶことができる。

日が落ちるのが早くなっても、山麓の湖西線は遅くまで走っている。安心して心ゆくまで夕暮れの山道を下れる。一日中歩いたコースを地図で追ってみる。紅葉の中を歩いたうれしさで心が満たされている。あの散り積もった落ち葉の感触が忘れられなくて、次の休日もまた来ようと思う。

特選コースガイド①

高野

高野町石道（こうやちょういしみち）
慈尊院から丹生都比売神社（じそんいんからにゅうつひめじんじゃ）

初級コース（★）

児嶋弘幸

弘法大師空海が高野山に真言密教の根本道場として金剛峰寺を建立して以来、1200年……。霊場高野山は内八葉、外八葉と呼ばれる1000ｍ級の山々に囲まれた山上都市で、弘法大師入定以来、高野浄土信仰の広まりと共に、人々の参拝が盛んに行われるようになった。そして参拝者がたどった高野山への道は、高野七口と呼ばれる七つの道に集約されて山内に入った。ここではその中のひとつ、表参道町石道の一部、慈尊院から丹生都比売神社のコースを紹介する。

町石道は、紀ノ川畔慈尊院から高野山大門を経て奥の院を結ぶ六里の道で、山上の根本大塔を中心に、慈尊院までの百八十町、奥の院までの三十六町の沿道に、町石と呼ばれる石の卒塔婆が一町ごとに立てられている道である。弘法大師が高野山を開いたとき、参詣者の案内のために木製の卒塔婆を立てたのが始まりという。

1200年前から生き続けてきた高野信仰の道は、今新たな歴史ブームに訪れる人も多くなってきている。春にはみかんの花が香り、新緑がまばゆく、秋になれば目の前にせまる紅葉を仰ぎ、富有柿が美しく点景を添える。のどかな静けさが味わえる町石道をのんびり辿ることにしよう。

慈尊院から丹生都比売神社

南海高野線九度山駅下車。駅の下の五ツ辻を直進し、丹生橋を渡ると慈尊院の表門が見えて来る。慈尊院は有吉佐和子の小説『紀ノ川』に登場し、その名が広く知られるようになった。高野政所、女人高野とも言われる。慈尊院から丹生官省符神社に登る石段の右脇に百八十町の町石が立つ。高野山根本大塔へと続く最初の町石だ。点々と続く町石に導かれながら、柿畑を登っていく。百六十五町石を過ぎた頃、右手に紀ノ川の展望が大きく開け、秋の頃には柿の実が美しく熟して町石に点景を添える。振り返ると、紀ノ川とその背後の葛城、金剛の山並みがつくり出す一大

高野町石道から紀ノ川を望む

パノラマに、しばし足を留めてしまう。

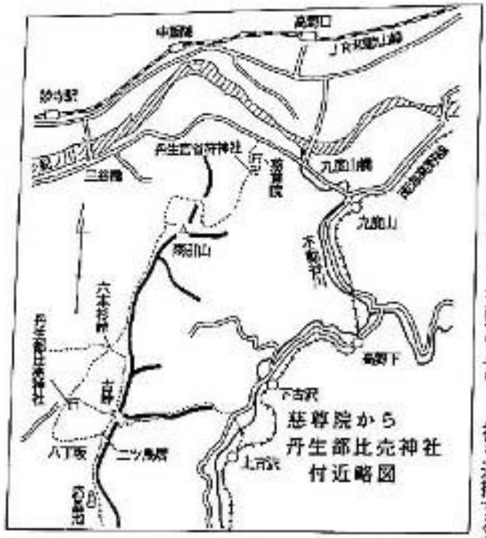
百六十三町石を過ぎると十字路となり、傍らの石標が道を教えてくれる。「右 かうや、三里あまの明神、左 こさわ一里ならやちか道」とあり、左の道が古沢から笠木峠を経て高野に登る近道で、平安御幸道がこの道であろうと伝えられている。ここでは右に道をとる。

高野山の先達僧が修行したと伝えられる雨

引山への道を左手に見送り、なおもなだらかな登りを続ける。やがて雨引山南尾根の平坦部に百四十四町石と一里石が並んで立っている。一里を三十六町と定めた最も古いものといわれる。百三十七町石を通り過ぎ、坂を登りきると小広い台地の六本杉峠（天野峠）に着く。以前には六本の杉の大木があったという所だ。

四方向に道が分岐し、ここで町石道としばらく別れて、まっすぐの道を下り、天野の里にある丹生都比売神社を訪ねる。老杉に囲まれた鳥居から境内に入ると、いきなり朱塗りの太鼓橋が私たちを迎えてくれる。さらに進むと天照大神の妹君他、三大神を祀る四棟の美しい本殿が現われる。本殿前には芝生が植えられており、ここでのんびり昼食としよう。

帰路は神社を後に左へ、待賢門院の墓、弘法大師の杖の跡を経て、八丁坂を登ると、ふたたび町石道に出合う。左手に丹生都比売神社を遥拝するための石の大鳥居が二基並んで建てられている。右手には百二十町の町石も目にはいる。



慈尊院から丹生都比売神社付近略図

T字路を右手にとると矢立峠、高野山大門を経て奥の院へ、左手にとれば古峠から先ほどの六本杉峠へと通じている。前者の道については別の機会にゆずるとして今回は後者の道、古峠に向かう。

ここで、しばらく町石道の中で最も美しいコースを歩くことになる。路面には落ち葉が散り敷き、静かな山境に山靴の音がカサコソとささやく。10分もしないうちに杉林の中の鞍部、百二十四町石の立つ十字路、古峠に到着。右にジグザグ道を下ると上古沢駅、左の急坂は天野の里、丹生都比売神社の東側に下る道だ。

右手に道を選ぶと前方に展望が開け、山腹を縫いながらのジグザグの下りとなる。やがて小さな支尾根の道となる。丹精こめて手入れされた果樹畑の中を下り、集落の中を抜け出て、車道に飛び出る。車道を横切り不動谷川を渡ると高台の上古沢駅に到着する。

《コースタイム》
南海高野線難波駅（電車1時間5分）九度山駅（30分）慈尊院（50分）雨引山分岐（40分）六本杉峠（30分）丹生都比売神社（20分）二つ鳥居（10分）古峠（1時間）上古沢駅（電車1時間30分）難波駅

《地形図》2万5千＝橋本

《問い合わせ先》
九度山町産業課　0736（54）2019
高野町観光課　0736（56）2931
かつらぎ町産業課0736（22）0300
南海電鉄総合案内所06（643）1005

番匠屋畑尾根から 西お多福山

初級コース（★）

安田憲弘

六甲連山の数あるハイキングコースの中でも人気の高い東お多福山。メルヘンの世界を思わせるような、草原の容姿が多くの人を引きつけるのであろう。しかし、その西隣りの西お多福山は、〝忘れられた山〟であった。西お多福山の山頂には、電波塔が林立しており、柵に囲まれた山頂部に入ることができない。そのため、訪れる人もほとんどなく、山頂から南へ延びる尾根（これを水晶尾根と呼ぶらしい）も、「ヤブの熟練者向、早春の頃通過可」と登山地図に記載される状況だった。

しかし、近年、西お多福山の山頂近くに、〝学習の森〟が設けられ、水晶尾根を切り開いて〝自然探勝路〟が付けられた。ヤブ山派にとっては、「貴重な自然が傷つけられた」わけだが、これも時代の流れであろう。ともかく、裏六甲から山上に登り、新設された〝自然探勝路〟をくだって見ることにした。

湯槽谷から番匠屋畑尾根へ

「番匠屋畑尾根」とは変わった名前だが、この尾根を登りつめた極楽茶屋のあたり一帯は、昔は番匠屋畑（ばんじょばた）と呼ばれていて、薬草を採集したところだという。

神戸電鉄有馬駅から、有馬温泉の賑わいを通り抜けて、六甲有馬ロープウェイ有馬駅を目指す。そこからは、一本道の林道となる。右手に灰形山、湯槽谷山の山並みを眺めながら滝川右岸の林道をたどる。道が左岸へ変わり、7〜8分登った所で、紅葉谷方面へと続く林道と別れて、右手の湯槽谷への山道へ入る。小さな道標を見過ごさないようにしょう。

湯槽谷の道は、「案外に通る人が少ないらしい」という印象。忠実に踏み跡をたどって行こう。水量の少ない、薄暗い感じの谷の道である。湯槽谷峠に達すると、ほっとする。スズタケと雑木の、展望のない小さな峠だが、ここからが番匠屋畑尾根、「裏六甲縦走路」の〝メインストリート〟なのだから。

峠から南へ、格段に良くなった道をたどる。急登を登りつめた所が、752・0メートルピーク。

西お多福山から六甲最高峰を望む

4等三角点の標石は、通路のすぐ東側のササの中で、注意していないと、見過ごしてしまいそう。南西側、凌雲台方面の展望が良い。

鞍部にくだり、六甲有馬ロープウェイの行き交うゴンドラの下を過ぎると、番匠屋畑尾根の〝核心部〟。この時期、すぐ左手（東側）に見えている六甲最高峰方面の紅葉が美しい。登りが緩やかになり、ドライブウェイの車の音が大きくなってくると、ほどなく、極楽茶屋である。（極楽茶屋のすぐ北の高台で出会った紅色のキノコはベニタケの仲間であろう

か、その大群落には、息を呑む思いであった）。

西お多福山から住吉道へ

極楽茶屋から東へ、「六甲全山縦走路」の一部をたどる。西お多福山への分岐点には、「西おたふく山から住吉道へ」と記された新しい道標が立てられている。道標に従って、舗装路を右（南）へ。舗装路は電波塔の柵で行き止まりになるが、その手前から左下へ、〝自然探勝路〟が始まる。

六甲全山縦走路からの分岐点

あたり一帯は広く刈り払われて、各種の樹木の苗木が植えられ、名札も付けられている。しかし、これらが〝学習の森〟にまで育つには、これから数十年を要することであろう。

〝自然探勝路〟の両側も、かなり幅広く樹木が伐採されていて、明るく、展望も良くなった。かつて（1987年秋）、ササを分け、茂みを潜って、なんとかくだったことがある〝道〟は、どの辺りだったのか？ まるで、見当もつかないほどの変わりようである。

〝自然探勝路〟は、忠実に尾根をたどる。高度を下げて、広葉樹林帯から杉林へと入り急降下した地点で、西お多福山の東側の山腹を縫って付けられている「森林管理歩道」と合流する。そこには大きな案内板が立てられていて、〝学習の森〟と、〝自然探勝路〟の概要が描かれている。しかし、ハイキングなどとは無縁な人が作った案内板らしくて、ハイキングコースの案内としては、役立ちそうにもない。

さらにくだれば、ほどなく、住吉川の清流に出合い、「住吉道」に合流する。そこからは、五助ダム、白鶴美術館をへて阪急御影駅へ、通い慣れた道である。

（平成3年11月3日歩く）

西お多福山付近略図

〈コースタイム〉
神戸電鉄有馬駅（15分）六甲有馬ロープウェイ有馬駅（20分）湯槽谷への分岐点（30分）湯槽谷峠（1時間20分）極楽茶屋（20分）西お多福山（1時間10分）住吉川出合（1時間20分）阪急御影駅

〈地形図〉 2万5千＝有馬・宝塚・西宮

特選コースガイド③　丹波

鬼伝説の大江山

中級コース（★★）

濱田啓司

大江山は宮津市の南、普甲峠の付近から南西に与謝峠に至る山々である。

北から鍋塚（763㍍）鳩ヶ峰（746㍍）最高峰の大江山（千丈ヶ嶽）（832・5㍍）赤石ヶ岳（736・2㍍）と並ぶ。

源頼光の鬼退治で世に知られているので峨々たる山稜を想像するが、頂上付近はいずれも熊笹の笹原で360度の展望が楽しめる。稜線は加悦の町を見下ろしながら快適な縦走が楽しめる。鍋塚を北に越えると宮津湾や丹後半島が見え、南には丹波の山波が続く。

JR福知山駅から北近畿タンゴ鉄道（宮福鉄道）で大江駅へ。タクシーで鬼嶽稲荷神社に入った。4000円以内だ。大きなブナの木立ちの中に鬼嶽稲荷神社の朱塗りの社が映えていた。ひんやりした風が吹き、神社の前の谷の木々が赤く色づいて、秋の深まりを感じた。

登山道は神社の奥のジグザグの急坂から始まる。雑木林の中を登ると、澄んだ青空に黄色に色づいた木々が映えている。ひと登りでススキの草原に出た。

千丈ヶ嶽の頂上だ。草むらの中に3等三角点の標石がある。快晴に恵まれて沢山の登山者が登って賑やかだ。丹波の山並みが重なって、西南には三角形の三岳山が聳えていた。展望を楽しんで先を急ぐ。

急傾斜の坂道を北に下る。雑木林の中から鳩ヶ峰の姿が見えている。思ったより下って鳩ヶ峰の登りになった。道端には可憐なリンドウやヨメナギクの花も咲いていた。千丈ヶ原の対岸の山が、澄み切った空気の中にくっきりと美しく見える。見た目より楽にお椀を伏せたような鳩ヶ峰の頂上に着いた。

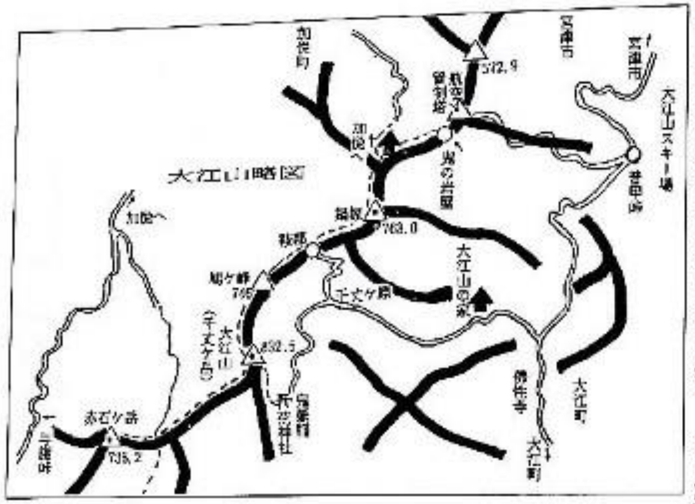
ここも素晴らしい展望だ。千丈ヶ嶽の風格ある姿が美しい。行く手の丸い鍋塚のピークと縦走路がくっきりと見えている。ブッシュの道を下って鞍部に出た。この鞍部には千丈ヶ原から舗装道路が上がっている。車で登って来た観光客が、岩の上で景色を眺めていた。ここにはトイレもある。

鍋塚から見た大江山（千丈ヶ嶽）

西からの暑い太陽を背に受けて鍋塚に登った。鍋塚の頂上は低い熊笹が茂り、360度の展望が開ける。振り返ると千丈ヶ嶽とその肩に、遠く三岳山が望まれ、西に加悦の町並みが見える。北には丹後半島の山が連なり、東の管制塔の頂上との間に宮津湾が見えている。秋の山の展望を心ゆくまで楽しんだ。

ルートはかなり下って平坦部に出る。雑木林を行くと左に温江へ下る分岐があり、道標があった。続いて左に壊れた小屋があり加悦へ下る分岐がある。ここからは登りになり、雑木林の山を行く。やがて辺りが開け鬼の岩屋に出た。酒呑童子の由来を書いた新しい案内板が立っていた。

鬼の岩屋を覗いて見た。岩の下に洞穴があり6～7人は入れる。昔はもっと広かったようだが、岩が落ちて真ん中を塞いでいる。その下は真っ暗だが深く広くなっている。少し離れた所にも入り口があり、そこに通じている。なるほどここなら鬼が何十人も隠れられる。付近ではドウダンツツジが紅葉していた。



鬼の岩屋から登るとすぐ航空管制塔の横に出た。宮津湾が夕日に照らされ黄色に染まり天の橋立も僅かに見える。パラグライダーが空にゆっくり舞っていた。二万五千の地図と違って、管制塔まで舗装の林道が通じていて、乗用車やパラグライダーの車が何台も登っていた。

秋の雰囲気に満ちたのどかな林道を普甲峠に下る。向かいの斜面に大江山スキー場が見えて普甲峠に着き、予約のタクシーを待った。

交通はJR福知山駅で北近畿タンゴ鉄道宮福線に乗り換え大江駅へ。ここから町営のバスが仏性寺にある町営大江山の家（食事・宿泊可能）へ一日六往復出ている。山の家から鬼嶽稲荷へは、頼めばマイクロバスで有料送迎してくれる。

西側の加悦からは北近畿タンゴ鉄道宮津線野田川駅から（加悦へのバスの便は少ない）タクシーで加悦青少年山の家へ。ここから池が成公園を経て稜線までは登り一時間少々だ。

マイカーなら舞鶴道の福知山インターで出て山の家か鬼嶽稲荷に駐車。マイカー2台で行って1台は管制塔に上げておくと最良。タクシーを予約して管制塔に来てもらう手もあるが大江町にはタクシーが1台しかないので要注意。

その昔「丹波の大江山に住み、都に出ては娘をさらい、人を苦しめた盗賊の鬼、酒呑童子を源頼光らが退治した」という鬼退治伝説は有名だが、都からの距離を考えると京都洛西の大枝山（京都市西京区大枝山町・阪急桂駅西2～3キロ）が舞台だとする説もある。

〈コースタイム〉鬼嶽稲荷神社（30分）千丈ヶ嶽（25分）鳩ヶ峰（15分）鳩ヶ峰・鍋塚鞍部（20分）鍋塚頂上（30分）鬼の岩屋（10分）管制塔（40分）普甲峠（約55分）山の家

〈地形図〉2万5千＝大江山・内宮

〈参考〉大江山の家　0773(56)0095

〈予約〉京都タクシー（大江）　0773（56）1414

特選コースガイド④

吉野

吉野郡天川村の山 天和山と高城山

中級コース（★★）

内田嘉弘

天和山とは、この山の麓を流れる天ノ川と和田村の頭文字をとって天和山と名付けたのであろうか……。村の人にこの山の由来を尋ねたが分からなかった。

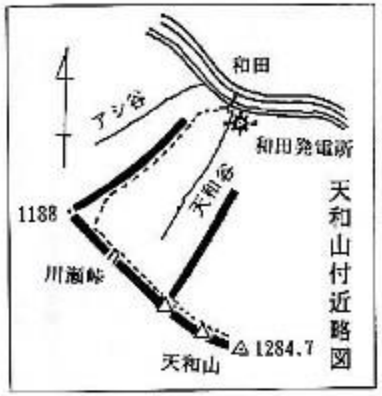
「昔、鉱山があって銅が採掘されたのですよ、三千人の人々が働いていたそうで廓もあったようです」

と中年の村人が話してくれた。

和田の郵便局の横に車を止めさせて頂き、天ノ川に架かる和田発電所への橋を渡ると天和谷とアシ谷の間の尾根の登山道に取り付く。送電線が走っているから、それの巡視路にもなっている。ジグザグの登りの道が続き、道端の杭には（里道）と書かれてある。最初は、溝状に削られた道が続き、尾根筋に出ると吉野杉の中の登りになる。ウーンウーンとチェンソーの音が谷間にこだましている。連日の好天続きで今日も青空、木陰でやや肌寒い感じが少しするだけでシャツ一枚でも充分凌げる。吉田君なんかTシャツ一枚だけで登っている。

「天和山、川瀬峠に登られる方は、右の尾根を登って下さい。森林組合」の立札が出ていた。地図にはここからトラバース道に入り九十九折を登り川瀬峠に出られるのだが、多分、森林伐採作業で危険だから一般の登山者は通らないでほしいという意味であろう。

私達はトラバース道から川瀬峠経由で登ろうとしていたが、立札に従って尾根筋を登る。

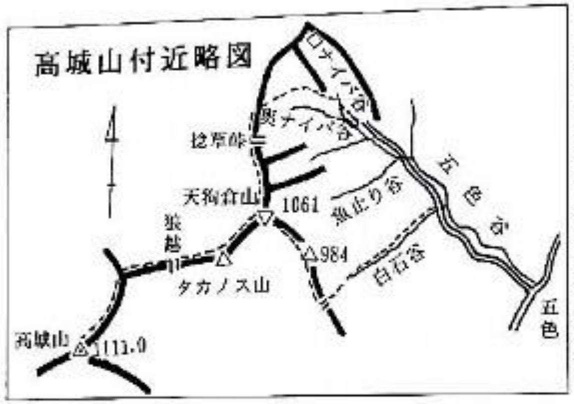


それをぐい登ると左側が開けてきて天和山が顔を出して来た。三つのピークが見えている。頂上は左の端のようだ。1183㍍のピークへ真っ直ぐに突き上げてきた山道は、トラバース道となり、その肩に出て少し下って川瀬峠であった。山頂は、ここから二つのピークを越え、三つ目のピークである。東に近畿の最高峰・八経ケ岳（1914・8㍍）の大きな山塊が迫り、天和山稜線の彼方に稲村ケ岳のゴツゴツした岩山が印象的だった。稲村ケ岳は、まだ登ってないから次回には是非共登らねば……。

天和山頂上にて

天和山は、家内が二年程前から登ろうと言っていた山で、ようやく今回実現した。

下山して、車を五色谷林道に入れ、その日は白石谷の出合いでテントを張った。（泊）



今日登る高城山は、1111㍍と1が四つきれいに並んでいる珍しい山なので、今回の計画に入れた。五色谷は途中で右俣と左俣に分かれる。私達は、天狗倉山（1061㍍）経由で高城山へ向かうことにしていたから、左俣の林道を登る。初めのうちは普通の林道だったが、左岸に渡ったところから林道はえぐられて岩盤がむき出しになっていた。これは、上部の口ナイバ谷からの洪水で削られたようで、この年の19号台風の被害のようだ。この口ナイバ谷出合いから奥ナイバ谷へ少し入ったところで林道は終わり、植林用の杣道になった。この杣道は次の右から入ってくる谷へと行ってしまったから、少し支尾根を登って、捻草峠へ向かってトラバースして稜線に抜けると踏み跡があって捻草峠であった。そして、この稜線の踏み跡を忠実に辿ると左から登って来ている道と合流、本来この道を登る予定であったのだが……登り口で見付けることが出来なかった。杉林の稜線を登り詰めると天狗倉山の頂上であったが、杉木立ちの中で展望はなく、山頂らしい雰囲気もないから、少し休んだだけで高城山へ向かう。こちらの天狗倉山より高城山の方が少し高いが、山頂付近まで桧色の杉林が一部迫り、その上、狭い稜線を描いていたから魅力に欠ける。天狗倉山を下り出すと左側が開け稲村ケ岳、バリ小屋の頭、行者還岳が姿を現わした。小春日和の日差しの中、晩秋の落ち葉をカサカサと踏みしめながら稜線を行く。少しの風でも黄色い木の葉がパラパラと舞い、冬間近かを感じさせてくれる。猿越が最低鞍部、丸尾から谷沿いの道が来ているようだ。

ここから高城山への登り、右手奥に昨日登った天和山の山頂の三つのコブが見える。雑木林と熊笹の気分のよい小ピークを過ぎて最後の急登を終えると1111㍍の高城山であった。雑木の中の山頂は、展望はなかったが、静かで落ち着いた頂きで、落ち葉の絨毯に腰を下ろしていると自然の懐に抱かれているようだ。天狗倉山からこの山を眺めた時、あまり魅力を感じなかったが、登ってみるとこの山も捨てたものではなかった。

帰りは、同じ道を戻り、天狗倉山から東南の稜線を辿り、984㍍の南の鞍部から白石谷を下った。

（平成2年11月17・18日歩く）

〈コースタイム〉

（一日目）和田発電所（1時間20分）川瀬峠（20分）天和山

（二日目）五色谷と白石谷の出合（40分）口ナイバ谷出合（40分）捻草峠（30分）天狗倉山（20分）猿越（50分）高城山（1時間）天狗倉山（30分）984㍍の南の鞍部（40分）五色谷と白石谷の出合

〈地形図〉2万5千＝山上ケ岳

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電鉄　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽文学散歩「神話と伝説の葛城古道」　11月1日(日)集合御所線忍海駅前9時20分〈コース〉忍海駅＝風の森－高鴨神社－高天彦神社－長柄－一言主神社＝近鉄御所駅（約9キロ）会費200円（交通費等別途）、講師帝塚山短期大学教授青山 茂氏、天王寺事業06（624）0382

▽読売ファミリーハイキング「やまとの水31選・みたらい渓谷から洞川温泉へ」　11月3日(祝)集合吉野線下市口駅前9時15分〈コース〉下市口駅＝天川川合－川迫川渓谷－みたらいの滝－光の滝－観音峰橋－面不動鍾乳洞－竜泉寺－駐車場＝下市口駅（約8キロ）参加自由バス代大人2360円小人1230円別途、天王寺事業06（624）0382

▽飛鳥キャンペーン「ラジオ大阪・明日香ミステリークイズウォーク」　11月3日(祝)集合国営飛鳥歴史公園館前10時（飛鳥駅下車徒歩約10分）〈コース〉飛鳥歴史公園・高松塚芝生広場－明日香村史跡めぐり－石舞台古墳（参加者交流会）（約6キロ）会費無料、天王寺事業06（624）0382

▽伊勢参宮本街道シリーズ「榛原～山粕橋」　11月8日(日)集合大阪線榛原駅前9時40分〈コース〉榛原駅－自明－千本杉－諸木野－石割峠－山粕橋＝室生口大野駅（約13キロ）会費無料（初参加の方は300円）雨天11月15日(日)上本町事業06（775）3566

▽近鉄ファミリーハイキング「日和山・鳥羽湾展望コース」　11月8日(日)集合鳥羽線鳥羽駅前10時20分～10時50分〈コース〉近鉄鳥羽駅－日和山－常安寺－金刀比羅宮－西念寺－赤崎神社－金胎寺－御木本幸吉生誕地－近鉄鳥羽駅（約11キロ）会費無料、名古屋事業0593（54）7007

▽葛城キャンペーン「巨勢の道、寺と古墳・船宿寺～葛駅」　11月15日(日)集合御所線忍海駅10時20分〈コース〉忍海駅＝船宿バス停－船宿寺－御所市運動公園－八幡神社－阿吽寺－巨勢寺跡－権現堂古墳－葛駅（約8キロ）会費200円バス代380円は別途、講師奈良県教育委員会文化財保存課長補佐河上邦彦氏、天王寺事業06（624）0382

▽飛鳥キャンペーン「豊浦宮1400年・推古朝の人々と遺跡を訪ねて」　11月15日(日)集合吉野線飛鳥駅10時〈コース〉飛鳥駅－欽明天皇陵－定林寺跡－橘寺－都塚古墳－石舞台古墳－島宮跡－伝板蓋宮跡（岡本宮跡）－飛鳥寺－豊浦寺跡（豊浦宮跡）－伝小墾田宮跡－田中寺跡（田中宮跡）－橿原神宮前駅（約10キロ）会費200円、天王寺事業06（624）0382

▽秋の吉野山キャンペーン「蔵王堂再建400年記念・紅葉の吉野路ハイキング」　11月15日(日)雨天中止集合吉野線六田駅前11時〈コース〉六田駅－柳の渡し－左曽川－談天大神－蔵王堂－如意輪寺－本善寺－吉野神宮駅（約12キロ）会費無料、交通費拝観料は各自負担、天王寺事業06（624）0382

▽鈴鹿セブンマウンテン「釈迦ヶ岳登山」　11月15日(日)（早立ちコース）出発朝明ヒュッテ本館7時（前日朝明ヒュッテ本館にお集まり下さい）〈コース〉朝明ヒュッテ本館－庵座の滝－松尾尾根の頭－釈迦ヶ岳－猫岳－羽鳥峰峠－朝明ヒュッテバス停（約10キロ）健脚

向朝明ヒュッテ本館0593（93）1787（小屋）0593（93）1421（自宅）宿代3600円各自支払、行事「星の話」日本山岳連盟指導員水谷深氏、定員150名中学生以上当日参加費1000円要申込3日前まで、（名古屋地区）0593（54）7007（大阪地区）06（775）3566各事業局へ

▽東海自然歩道歩け歩け大会「飛鳥キャンペーン協賛飛鳥古墳めぐり」　11月21日(土)集合吉野線壺阪山駅前11時～11時40分〈コース〉壺阪山駅－岡宮天皇陵－束明神古墳－マルコ山古墳－益田岩船－久米寺－橿原神宮前駅（約9キロ）会費無料、名古屋事業0593（54）7007

▽赤目四十八滝「健康ウォーキングラリー」　11月22日(日)集合大阪線名張駅東改札前10時～11時〈コース〉名張駅＝落合－出合－赤目四十八滝渓谷－赤目滝口－（遊歩道）－極楽寺－赤目口駅（約14キロ）健脚向　会費無料バス代大人520円小人260円入山料大人210円小人100円別途、上本町事業06（775）3566

▽信長観光キャンペーン「松永久秀の野望・信貴山めぐり」　11月23日(祝)集合信貴線服部川駅11時～11時30分〈コース〉服部川駅－大阪府民の森・みずのみ園地－十三塚－高安山－信貴山城跡－高安山駅（約9キロ）会費無料、名古屋事業0593（54）7007

▽万歩ハイキング「歴史の道・秋篠寺～春日大社」　11月28日(土)集合奈良線西大寺駅南改札口10時〈コース〉西大寺駅－秋篠寺－ウワナベ池－不退寺－般若寺－春日大社－近鉄奈良駅（約15キロ）会費無料、上本町事業06（775）3566

▽文学散歩「暗越え河内道の活況・布施～枚岡」　12月6日(日)雨天中止集合大阪線布施駅北改札前2階10時20分〈コース〉布施駅－金燈籠（法明寺）－森江稲荷－東足代旧道－高井田の地蔵群と道標－額田の習俗史跡－首つき地蔵－菱江の習俗史跡－松原宿－水走（水走氏の本拠地）－枚岡神社－枚岡駅（約10キロ）参加費200円講師東大阪短期大学教授伊勢戸佐一郎氏、上本町事業06（775）3566

▽近鉄ファミリーハイキング「奈良大和路キャンペーン、佐紀路・平城宮跡コース」　12月13日(日)集合橿原線西ノ京駅前11時～11時30分〈コース〉西ノ京駅－薬師寺－唐招提寺－歴史の道－平城宮跡－大和西大寺駅　会費無料、名古屋事業0593（54）7007

▽近鉄登山「ダイヤモンドトレールコースを歩く、金剛山から葛城山へ」　12月19日(土)～20日(日)集合長野線富田林駅前9時30分〈コース〉〔第一日目〕富田林駅＝千早ロープウェイ前－久留野峠－伏見峠－金剛山頂－水越峠－葛城山（葛城高原ロッジ泊）〔第二日目〕葛城高原ロッジ－岩橋峠－平石峠－岩屋口－二上山万葉の森－展望台－上ノ太子駅（約28キロ健脚向）会費10000円定員80名（電話申し込み）中学生以上健康な方、天王寺事業06（624）0382

▽万歩ハイキング「初日の出・伊勢朝熊山御来光登山」　12月31日(木)～1月1日(祝)集合上本町駅地上改札前23時・大阪線八木駅改札前23時30分〈コース〉上本町駅＝八木駅＝五十鈴川駅－神宮神田－ケーブル跡－朝熊山（御来光展望）＝内宮前（初詣）＝宇治山田駅＝八木駅＝上本町駅（約9キロ）会費上本町から大人4840円小人2420円八木から大人4340円小人2170円バス代別途定員120名（電話申し込み）、上本町事業06（775）3566

三岐鉄道

▽宇賀渓砂山ハイキング・山沿いコース　11月1日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム9時5分〈コース〉近鉄富田駅＝大安駅＝宇賀渓キャンプ村－（山腹道）－五階滝－長尾滝－（砂山道）－砂山－宇賀渓キャンプ村＝大安駅＝近鉄富田駅（約11キロ）参加自由会費100円、運輸課・観光係0593（64）2141

▽晩秋の藤原岳登山　11月15日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム9時5分〈コース〉近鉄富田駅＝西藤原駅－（聖宝寺道）－藤原山荘－展望丘－藤原山荘－（大貝戸道）－西藤原駅＝近鉄富田駅（約9キロ）参加自由会費100円、運輸課・観光係0593（64）2141

京阪

▽比良連峰アタック「御殿山・武奈ガ岳」　11月15日(日)雨天中止集合JR堅田駅前9時30分〈コース〉堅田駅＝坊村－明王院－P846－一本松－御殿山－ワサビ峠－(西南稜)－武奈ガ岳－細川越－広谷－イブルキノコバ－八雲ガ原－山上駅＝比良駅（約7キロ）参加自由（交通費別途）京阪事業部06（944）2525

▽スポニチファミリーハイク「紅葉谷・くつわ池」　11月22日(日)雨天中止集合京阪宇治駅9時30分〈コース〉宇治駅－宇治神社－吊橋－紅葉谷－白山神社－くつわ池－展望台－天ヶ瀬＝宇治駅（約11キロ）参加自由（交通費別途）京阪事業部06（944）2525

阪急

▽健康とふれあいハイキング・ウオーキングトライ　11月1日(日)雨天3日(祝)受付と出発芦屋山手幼稚園前（神戸線芦屋川駅東側）上・中級コース9時～9時30分初級コース9時30分～10時〈コース〉（初級）芦屋山手幼稚園－県道－柿谷道－ゴロゴロ岳－防火道－ガベの城道－柏堂神社－県立北高校－越木岩神社（約8キロ）（中級）芦屋山手幼稚園－開森橋－芦屋右岸道－弁天岩－芦屋ゲート－ゴルフ橋－奥池－飯盛尾根－ガベの城道－柏堂神社－県立北高校－越木岩神社（約12キロ）（上級）芦屋山手幼稚園－開森橋－芦屋山手中前－会下山遺跡－蛙岩－風吹岩－荒地山－ゴルフ橋－奥池－飯盛尾根－ガベの城道－柏堂神社－県立北高校－越木岩神社（約16キロ）リーダーはつきません、各級認定書交付、阪急山の係06（373）5326

▽日刊スポーツファミリーハイク「東六甲山系クリーンハイク」　11月8日(日)雨天中止（Aコース）集合苦楽園口駅東側夙川堤9時〈コース〉苦楽園口駅－夙川上流緑道－銀水橋－北山公園－北山貯水池－鷲林寺－観音谷－奥池（約8キロ一般向）（Bコース）集合芦屋川駅東側山手幼稚園前9時30分〈コース〉芦屋川駅－芦屋右岸道－弁天岩－芦屋ゲートーゴルフ橋－奥池（約7キロ一般向）阪急山の係06（373）5326

▽デイリースポーツワンゲルシリーズ「宝塚自然休養林クリーンハイク」　11月22日(日)雨天中止集合宝塚自然休養林シンボル広場（宝塚線中山駅すぐ中山寺本堂から西100メートル）9時30分～10時〈コース〉シンボル広場－夫婦岩－奥の院－（やすらぎの広場）－御殿山－清荒神参道－清荒神駅（約7キロ家族向）やすらぎの広場で解散昼食後イベントがあります。阪急山の係06（373）5326

▽'92嵐山・嵯峨野まつり「御室仁和寺八十八ヶ所巡り」　11月29日(日)雨天中止集合京福御室駅前（阪急大宮下車京福嵐山行きにのりかえ）10時～10時30分〈コース〉京福御室駅－仁和寺－御室八十八ヶ所巡り（成就山）－仁和寺－御室駅＝大宮駅（約4キロ家族向）阪急山の係06（373）5326

○阪急当日決行中止のお問い合わせ梅田駅06（373）5656　三宮駅078（331）4802　河原町駅075（211）1052

叡電・京福

▽叡電ハイク「貴船・河童ヶ谷・天ヶ岳コース」　11月8日(日)雨天中止集合貴船神社奥の院10時〈コース〉貴船－河童ヶ谷－旧花背峠－百井岐れ－天ヶ岳－三又岳－薬王坂－鞍馬駅、参加自由、叡山電鉄運輸課075（781）5121

▽京福ハイク「紅葉の洛西・菖蒲谷池コース」　11月29日(日)雨天中止集合京福電車鳴滝駅10時出発〈コース〉鳴滝駅－北嵯峨広沢池－直指庵－京見峠－菖蒲谷池－高雄－錦雲峡－東海自然歩道－清滝バス停、参加自由、京福電鉄管理課075（801）5315

南海

▽読売ヘルシーハイク「和泉葛城山をめざして」　11月1日(日)雨天中止集合南海線岸和田駅前8時30分（なんば駅7・50発和歌山市ゆき急行）〈コース〉岸和田駅＝牛滝山バス停－和泉葛城山－展望台－枇杷平－塔原＝岸和田駅（約10キロ）南海総合案内所06（643）1005

▽朝日ファミリーハイキング「バラ園散策－緑と太陽の丘から神於山」　11月15日(日)雨天中止集合南海線岸和田駅前9時10分（なんば8時40分発和歌山市ゆき急行に乗車）〈コース〉岸和田駅＝緑と太陽の丘－神於山－水間鉄道水間駅（約10キロ）南海総合案内所06（643）1005

▽読売ヘルシーハイク「金剛山湧出岳をめざして」　12月6日(日)雨天中止集合高野線河内長野駅前8時30分（なんば駅7・50発三日市町ゆき区間急行乗車）〈コース〉河内長野駅＝金剛登山口バス停－黒トガ谷－セト－湧出岳－伏見峠－ロープウェイ前バス停＝河内長野駅（約9キロ）南海総合案内所06（643）1005

▽朝日ファミリーハイキング「西高野街道－学文路から九度山」　12月20日(日)雨天中止集合高野線紀伊清水駅前9時40分（なんば8時40分発高野山ゆき急行に乗車）〈コース〉紀伊清水駅－学文路天満宮－学文路大師－苅萱堂－繡天神－九度山駅（約9キロ）南海総合案内所06（643）1005

○右南海ハイキングは参加費無料交通費各自でご負担願います。当日の中止決行のお問い合わせは南海なんば駅駅長室06（631）1351～2（午前6・30以降）まで

神戸電鉄

▽神鉄ハイキング「百間滝と有馬紅葉狩りハイク」　11月15日(日)集合鼓ガ滝公園10時35分（有馬温泉駅南約1キロ）〈コース〉有馬温泉駅－鼓ガ滝公園－大谷－百間滝－紅葉谷道－射場山－瑞宝寺公園－有馬温泉駅（約8キロ一般向）神鉄観光事業部078（521）0321

▽神鉄ハイキング「小野鴨池と鍬山ハイク」　12月6日(日)集合粟生駅10時25分〈コース〉粟生駅－鴨池－鍬山－満峠－下来住－大住橋－小野駅（約11キロ一般向）神鉄観光事業部078（521）0321

山陽電鉄

▽山陽ハイキング「県花のじぎくハイク」　11月8日(日)集合大塩駅前10時〈コース〉大塩駅（大塩天満宮）－馬坂峠－牛谷展望台－的形－八家地蔵－小赤壁－木庭山－八家駅（9キロ家族向）山陽電鉄ハイキング係078（941）6915

▽山陽ハイキング「ジェームス山・鉄拐山ハイク」　11月23日(祝)集合滝の茶屋駅前10時〈コース〉滝の茶屋駅前（城が山公園）－ジェームス山－塩屋－旗振山－鉄拐山－妙見堂－須磨寺駅（8キロ家族向）山陽電鉄ハイキング係078（941）6915

▽山陽ハイキング「六甲・有馬縦走ハイク」　12月13日(日)集合阪急御影駅前7時〈コース〉阪急御影駅前（深田池公園）－白鶴美術館－住吉道－六甲最高峰－魚屋道－神鉄有馬温泉（12キロ健脚向）山陽電鉄ハイキング係078（941）6915

奈良交通

▽万葉の大和路を歩く会「玉かぎる二上山」　11月15日(日)集合近鉄大和高田駅9時30分〈コース〉大和高田駅＝二上山登り口－岩屋峠－雌岳頂上－雄岳頂上－大津皇子墓－馬の背－鳥谷口古墳－犬養先生万葉歌碑－当麻寺－近鉄当麻寺駅（約6キロ）講師沼原和義・武庫川女子大学教授

▽万葉の大和路を歩く会「人恋ふる奈良山・佐保路」　12月13日(日)集合近鉄高の原駅バスセンター9時30分〈コース〉高の原駅－秋篠寺－神功皇后陵－孝謙天皇陵－平城宮跡－歌姫神社－磐之媛皇后陵－コナベ・ウワナベ古墳－自衛隊前バス停＝近鉄奈良駅（約7キロ）講師山内英正・甲陽学院高校教諭

○右「万葉の大和路を歩く会」への参加費は無料ですがテキスト代400円のほかバス代、拝観料などが必要。申込制で一週間前までにハガキか電話で。奈良交通「万葉の大和路を歩く会」係0742（20）3100、〒630奈良市大宮町1の1の25

'92五私鉄リレーハイキング

南海

11月8日(日)雨天11月23日(祝)

▽第5回「空海の道　九度山慈尊院～丹生都比売神社コース」（12キロ）（集合）慈尊院（高野線九度山駅から徒歩）8時30分～10時〈コース〉九度山駅－慈尊院－六本杉峠－丹生都比売神社－二ッ鳥居－古峠－上古沢駅（解散）（問い合わせ）南海電鉄総合案内所06（643）1005

せせらぎ

たのしかった山行の思い出や記録。四季の自然情報など。常時投稿下さい。1行15字詰20行以内に。

題字・小林玻璃三

7月23日から8月5日まで二週間、モンゴルの西の街・ホブトの近くのツァンバガラブⅡ峰（4220㍍）に登ってきました。この山は一九八二年にモンゴル人・ドルシディーム（当時63歳）が初登頂、彼はスポーツマスターとして現在も健在だそうです。

草の海の彼方に冠雪の山があります。六、七、八月はその山に草を求めて放牧に上がるようです。私達のBCは約3000㍍の高さでしたが、羊、山羊、牛、馬がBCより上へ草を求めてどんどん上がっていました。

ゲル（移動式円型住居）がBCから下流に30軒ほどあって、馬乳酒、モンゴルアルヒ（ウオッカ）も飲み、たのしいモンゴルの山旅でした。

（内田喜弘）

8月6日(木)、重いザックをかついで大峰山を登っていった。この荷物で登れるかなと思った。

喉がかわいてしかたがない。頭の中で1・5ℓの水を入れてきてガブガブ飲みまくったろうかと考えるぐらい喉がかわいてた。

鐘掛岩をやって宿坊でザックを降ろして、レーションを食べた。西ノ覗をやった。死ぬほど恐かった。ひっかえして、裏行場をやってまたザックを背負って、大峰山寺にお参りした。シンゲ峠から山上川まで降りていった。危険な階段ばかりだった。手すりの木が腐っていた。道の岩も非常にすべりやすかった。

川原でザックを降ろしたらホッとした。タオルをだして川に走っていった。

（早石倫大）

サービスチェーン
SHC
新ハイキング

どこへ行こうか

SHC関西サービスチェーンへ

◎サービスチェーンを利用するときは、電話か往復ハガキで必ず予約をして下さい。
◎予約のときに料金を確認して下さい。

名峰・二岐連山 小白森・大白森・甲子・那須への縦走基地 1名でも泊まり 駅送迎可（要予約） 露天風呂と内湯
福島・二岐（ふたまた）温泉
日観連 大和館
〒962-06
福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉
☎0248-84-2021
F 0248-84-2705

秩父鉄道・東武鉄道 クーポン券も利用できます
秩父 不動の湯
〒368
埼玉県秩父市山田2432
☎0494-23-1126

富士登山・富士五湖
東海自然歩道
（石割山・ハリモミ純林）
三国山の麓
ペンション コットンテール
〒401-05
山梨県南都留郡山中湖村平野
☎0555-65-8515

四季織りなす乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき造りと味の宿・日観連
温泉旅館 けやき山荘
〒390-15
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
☎0263-93-2555

8月17日、正面に見えるのが大台ケ原。遠くに島のように見えるのが木曽の御岳。その奥が北アルプスの山々。あの雲のあたりが南アルプス。大台のかなたに富士山が見えるというが今日は見えない。ここ大峰・弥山山頂の国見八方睨は御来光を拝む人たちでにぎわう。この時期の太陽は大台ケ原から上がる。

4時30分頃、夜の空に輝いていた星が見えなくなり、空が赤みを帯び始める。刻々と空の色が変わり、それを映した雲の色が変化する。5時12分、赤い点が見える。太陽の上辺だ。ゆらゆらと揺らぎながら大きな真っ赤な太陽が姿を現わす。手を合わせる人もいる。人々の顔が輝いて見える。新たな一日の始まりだ。

（松永恵一）

8月23日、霊仙山行き。JR米原駅で乗り換え柏原駅で下車。林道を歩くこと1時間余、霊仙山一合目に辿り着く。天気予報は降水確率0パーセントなのに時雨始めた。

一行は6名、二合目の"二本杉"の下で小休止、誰かの首に山蛭を見つけて払い落す。私達は慌てて杉の木の下を立ち去ったが、山蛭の攻撃は八合目あたりまで続き十合目まで休まずに登った。

空の晴れた第二山頂は比良武奈ケ岳を思わせるような草原で、涼風が吹き、アザミ、オミナエシ等早くも秋の花が咲き始めていた。正面に伊吹山、琵琶湖にヨットの白い帆、一角に街と、展望が素晴らしかった。

因みに山蛭から身を守ったのは、ロングスパッツを付けた[illegible]装備の私一人だけだった。

（三木節子）

八月山行報告

1～2日、伏見公民館『地形図と歩く』④の講師として、奥宇陀青少年旅行村にてキャンプ自炊（夕・朝・昼食）。Ⅰ△三峰山（二万五千「菅野」）へ。参加33名。

21日、Ⅲ△殿野（二万五千「南日裏」）へ。

23～24日、弥山小屋泊。大和の最高点を行く。Ⅱ△弥仙山（二万五千「弥山」）、Ⅲ△仏生岳・Ⅰ△釈迦ケ岳（二万五千「釈迦ケ岳」）。雷鳴とどろく雨中を。

25日、「大和遊歩会」例会。天川村ミタライ峡へ。参加14名。

28日、Ⅲ△高峰（二万五千「大和大野」）へ。

30日、『京のつどい山』例会。Ⅲ△槌ケ峰・Ⅲ△荒山（二万五千「吉野山」）へ。参加37名。

（上田偉弘）

「登山は貴族のスポーツだ」何だって？ 登山は大衆スポーツだって。冗談じゃないよ！ 大衆という言葉ほどうさんくさい言葉はない。国民的と言い替えても同じだ。大衆化したとき、文化は滅ぶ。

見よ！ 中高年の登山ブームを。山登りをしたことのない人が、健康状態も考えず安易に富士山に登り、今年は6名もの命が失われた。登山道の真ん中で休憩し、ゴミを残し、山小屋には消灯の訪れた非常識な時間に到着する。こんなものは貴族文化、すなわち貴族のスポーツとしての登山ではない。

我々は「登山は貴族のスポーツだ」と高らかに宣言し、貴族精神を持って、楽しく山に登ろうではないか。もう一度言おう。

「登山は貴族のスポーツだ」

（山田淳一）

汗をたっぷり流せる温泉と笹ケ峰牛のシャブシャブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949-21 新潟県中頸城郡
妙高高原町池の平温泉
☎0255-86-2261

高山の花、湿原の花
妙高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-21
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉 ナガサキロッジ
☎0255-86-2261

休憩昼食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250-06 神奈川県足柄下郡
箱根町仙石原139
☎0460-4-9041

山小屋風のペンション
南アルプス北部・八ヶ岳登山、山女釣り（中央線日野春駅より送迎車有）
フローラル・ヒュッテ
かぶと村
〒408 山梨県高根町下黒沢
2424の4
☎0551-47-2541

山行計画
SHC関西
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように係あて申し込んでください。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料（日額50円、夜行日帰りの場合は2日になり100円）を支出して頂きます。（AIU保険会社と契約）

傷害保険特約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額		1000万円
入院保険金	日額	5000円
通院保険金	日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行、②スキー使用の山行、③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行、④宿泊場所内の事故、（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書
- 山行
- 期日
- 住所 〒
- 電話番号
- 氏名
- 会員番号（会員でない方は会員外と記入）
- 生年月日
- 緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

スケッチハイキング2
比良を描こう（一般向き）

期日　11月1日(日)日帰り
集合　京都駅3番ホーム（湖西線）中央売店付近7時40分
コース　京都駅＝比良駅＝比良リフト下駅＝比良山上駅―カラ岳―北比良峠山上駅―比良リフト前駅―比良駅＝京都駅
費用　約3000円（交通費、ただし比良駅まで各自で買って集合して下さい）
地図　昭文社「46比良山系」
係　◎松田滋男　保田　博
申込み　〒610－01城陽市寺田今堀52の97松田まで

比良山系では第一級の景勝地、カラ岳でスケッチをします。スケッチブックと画材具（材料自由）を持参のこと。描画に時間をかけますので、防寒具をしっかりと。

雨天中止

京都北山歩き13
小野村割岳（一般向き）

期日　11月8日(日)日帰り
集合　出町柳駅8時30分（集合後鉢峠バスにて出発）
コース　出町柳駅＝広河原下ノ町―ウサ谷―小野村割岳（往復コース）＝出町柳駅
費用　約4000円（バス代）
地図　昭文社「48京都北山2」
係　◎村田智俊○中西信行
申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10村田まで

静かで紅葉が最高の時です。北山の奥の落ち着いた山頂です。雨天中止

日本最高位の温泉
立山・室堂平（2400㍍）
みくりが池温泉
連絡先
〒930　富山市五福末広町
☎ 0764－41－0434

ハイキングに！スキーに！
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯経平床下車
☎ 0269－34－2421
東京本社・東京都新宿区新宿3－20－5（新光第2ビル）
(株)スポーツサービス
☎ 03－3341－0211

黒姫山・妙高火打山・飯綱山豊山・苗名滝ハイキング
大自然が奏でる四季の詩
シャレー黒姫
〒389－13
長野県上水内郡信濃町黒姫高原
☎ 0262－55－3171

館内より日本カモシカ毎日20頭以上と、北アの雪形観察、北ア全体の大眺望の湯、春は山菜等
展望風呂・露天風呂
あるぷすいん　満山荘
〒382　長野県上高井郡高山村山田牧場・奥山田温泉
☎ 0262－42－2527

金勝アルプス縦走
鶏冠山から天狗岩（一般向き）

期日　11月22日(日)日帰り
集合　JR草津駅前8時50分（9・00発バス乗車）マイカー利用の人は9時30分に上桐生キャンプ場の駐車場へ
コース　草津駅＝上桐生―北谷林道―落ヶ滝―鶏冠山―天狗岩―白石峰交差点―狛坂磨崖仏―南谷林道―オランダ堰堤―上桐生＝草津駅（解散）
費用　約1000円（交通費）
地図　5万―京都東南部・水口　2万5千―瀬田・三雲
係　◎西出　寛○中西信行○村田智俊
申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10村田まで

びわ湖を見下ろす展望の縦走路には奇岩・奇石が多く、スリルもあってたのしい一日を約束します。雨天中止（小雨決行）

京都北山歩き14
桟敷岳から城丹国境尾根（中級向き）

期日　12月6日(日)日帰り
集合　地下鉄北大路駅バスターミナル8時
コース　北大路駅前（タクシー）祖父谷林道才梅谷出合―桟敷岳―アベクロ峠―飯盛山―天狗山―茶呑峠―雲畑―岩山―京都駅（18時40分頃）
費用　約4000円（タクシー・バス代）
地図　昭文社「47京都北山1」
係　◎村田智俊○中西信行
申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10村田まで

初冬の城丹国境尾根は長いですが、北山のよさをしみじみと感じるコースです。雨天中止

伊勢山上（一般向き）

期日　12月6日(日)日帰り
集合　近鉄久居駅9時
コース　久居駅―伊勢寺―姫坂峠―飯福田―飯福田寺―伊勢山上・行者岩など―飯福田寺―久居駅（久居駅～飯福田寺間は車を用意します）
費用　50円（保険代）
地図　2万5千―大河内
係　◎新町善夫○尾崎英元
申込み　〒519－03鈴鹿市大久保町2065稲垣逸夫まで

ちょっぴりスリルも味わえる行場です。小雨決行

文学歴史散歩6
談山神社から飛鳥（一般向き）

期日　11月29日(日)日帰り
集合　桜井駅（JR南出口）9時
コース　桜井駅＝不動滝―談山神社―御破裂山―気都倭既神社―石舞台古墳―甘樫の丘―近鉄橿原神宮前駅

あなたのふる里になりたい
スキー場まで歩いて1分
白馬ファミリーペンション
和田森
〒399－93　長野県北安曇郡白馬村八方和田野
☎ 0261－72－5351

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新館増築完成全館個室
木の香匂う新浴室麗生水豊富
オーレン小屋
1泊2食付き　4500円
4月末～11月末開設
〒391－02　茅野市豊平2720　小平　勇
☎ 0266－72－1279

日本唯一の女人禁制の山「大峰山」（百名山）の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7、000円から
〒638－04　奈良県吉野郡天川村洞川
☎ 07476－4－0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
ホテル　磯辺荘
屋久島空港からバス10分
〒891－43　鹿児島県熊毛郡屋久町安房
☎ 09974－6－3021

費　用　約1500円（近鉄上本町駅起点交通費）
地　図　2万5千—桜井・畝傍山
係　◎松永忠一
申込み　〒580松原市岡2の2の22松永まで

西の日光と呼ばれる談山神社。多くの史跡の点在する古代史のロマンに満ちた道を歩く。道の多くは舗装され歩きやすい。雨天中止

山行報告

皆子山

7月12日(日)　曇時々晴れ
出町柳駅7・30（集合）7・45発—平8・30〜8・50—皆子谷出合9・30—皆子山11・30（昼食）12・45—寺谷登山口14・45〜15・15—平15・40〜16・40発—出町柳駅17・40（解散）

心配された雨も上がり、深緑の谷歩きを楽しんだ。皆子谷遡行の2時間は最後の急登がしんどい。下山は寺谷を通らずトラバース巻き道を選んだが、イバラとブッシュがすごく、春先の道だった。

（参加者）石田輝子　岸本三三子
竹内正三　稲本芳雄　宇高永次郎
呉比裕美　松林立美　新木満治
佐藤　栄　高岡信男　丹野真郎
森崎　洋　森鈴慶子　中井ひろみ
星野正弘　嶋田幸子　山口恵美子
多田正信　多田春子　小島フジ子
上田幸美　傍田治美　中路加代子
井上保三　呉山繁三　山岸智子
吉田直二　砂川　亨　砂川武志
大西治之　原　滋子　田中玲子
○中西信行◎村田智俊　計34名

紀見峠から金剛山

7月26日(日)　晴れ
南海紀見峠駅9・00（集合）9・05出発—山の神10・23〜10・30—西の行者11・20—行者杉12・10（昼食）12・50—千早峠13・30—久留野峠14・10〜14・20—金剛山頂15・50—千早登山口16・35〜16・42発—南海河内長野駅17・20（解散）

夏休み最初の日曜日、参議院選挙、バルセロナオリンピック等に負けず、ただただ暑い熱い縦走。おつかれさんでした。

（参加者）鈴木正代　中山真知子
大岩愼史　和田貴志　竹中主税
木下　聡　藤原　敦　船原秀一郎
吉永泰三　三浦宏尚　菅原睦友
落合宏和　早石倫大◎松永忠一
計14名

六甲・白石滝から最高峰

7月26日(日)　晴れ
地下鉄三宮駅9・00（集合）9・15発—（谷上駅のりかえ）—有馬温泉駅9・50〜10・10—紅葉谷出合10・40—白石滝11・00〜11・10—白石谷源頭12・00（昼食）13・15—六甲最高峰13・50〜14・10—雨ヶ峠15・15—ロックガーデン風吹岩16・00—高座滝16・30〜17・20—阪急芦屋川駅17・40（解散）

白石谷は夏でも涼感いっぱい。二個所ロープにたよる急なガレ場あり、午後の下山は暑かった。高座滝の茶屋でビールを飲んで芦屋へ下った。

（参加者）下元正道　稲本芳雄
三木民子　鹿田京子　山口恵美子
高岡信男　竹内正三　小島フジ子
井川邦保　井川慶一　山脇加奈子
山科邦彦　松林立美　井上恵美子
多田正信　多田春子　呉比裕美
山岸智子　矢内展子　船田一郎
新井琴代　吉田直二　飯田　昇

東京本社
「新ハイキング」（月刊）
定期購読のすすめ

東京の「新ハイキング」誌は月刊です。昭和25年創刊で、以来41年間全国のハイキングファンに親しまれています。
関東、甲信越の山を中心に北海道、東北から九州までハイキング情報がいっぱいです。
定期購読を御希望の方は、
入会金　500円
年会費5400円
です。郵便振替をご利用いただき左記へお申し込み下さい。

新ハイキング社
〒114東京都北区滝野川7の6の13
TEL　03（3915）8110
振替口座　東京3—146915

飯田政子　井上保三　中路加代子
西田　寛　平野国三　辻　和子
原　滋子　林　弘毅　水本加津栄
呉山繁三○中西信行◎村田智俊
計35名

天ヶ岳・百井谷

8月9日(日)　雨のち晴れ
出町柳駅7・40（集合）7・54発—静原城山9・40—東俣林道終点10・50—天ヶ岳鉄塔下12・00（昼食）13・10—百井谷道13・40—鞍馬駅14・50（解散）

小雨模様も午後には回復予報で決行。東俣谷は適当に荒れているがよい谷筋道だった。鉄塔下での昼食頃には晴れ間が広がり展望も申し分なかった。

（参加者）中村英雄　藤井勝彦
黒沢　孝　竹内正三　久保田英次
小室　武　中西　昭　中西和子
山口加代　呉比裕美　内田浩幸
松林立美　樫畠康一　宇高永次郎
星野正弘　嶋田幸子　小笠原毅子
飯田　昇　高岡信男　吉田直二
呉山繁三　井上保三　水谷美也子
林　弘毅　石川　昭　大谷峰枝子
江端寿夫○中西信行○村田智俊
◎出口数次　計31名

野登山

8月23日(日)　曇り時々小雨
小岐須山の家駐車場9・30（集合）9・35出発—一の谷の滝9・50—尾根道庄内分岐11・00—野登山三角点12・00—野登寺12・15（昼食）13・35—庄内分岐14・35—小岐須山の家15・55（解散）

あいにくの天候でヤブこぎも少々あったりして、一般向きと銘打った割にはしんどい登りだった。しかし頂上付近のブナ林と杉の巨木の見事さが、その疲れをふきとばしてくれた。老若男女20名のにぎやかで楽しい山行でした。

（参加者）西出　寛　平野国三
呉山繁三　辻　和子　石田真由美
田中玲子　原　滋子　井上恵美子
新井琴代　呉比裕美　足立八重子
林　政三　吉田直二　山盛加奈子
村田智俊　中西信行　大矢知正浩
大矢知田鶴子　○尾崎英五
◎稲垣逸夫　計20名

新ハイキングクラブ関西
入会のすすめ

このページの山行例会を通して正しい山歩きを、たのしい山仲間たちといっしょに味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

新ハイキングクラブ関西の活動はまだ始まったばかりです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には毎号「新ハイキング・別冊関西の山」（年間6号）をお届けします。会員はこのページの山行例会に参加できます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　2500円（送料共）

です。切手代500円をお送りになれば見本誌1冊をさしあげます。

新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用下さい。第何号から送本せよとご明示下さい。

1号〜6号バックナンバー在庫あります。ご希望の方は、300円以下の切手か、挿入の振替用紙で誌代分送金のうえお申し込み下さい。定価各450円（送料は当会で負担します）

○新入会員紹介

石中一男　森本和子　里見紀央
古池良二　山本節子　小林信郎
竹口宏昭　児島弘幸　水口和夫
中谷定幸　田中　聡　久保田　茂
稲垣一朗　大畑幸雄　新井通靖
中村喜邦　古池　弘　阿部晴子
小村　尚　森田　裕　山口加代
藤井勝彦　藤田光彦　藤田ルリ子
木村卓而　松枝宗男　吉村　迪
赤木良夫　西崎智雄　西崎愛子
和田正美　石川　新　福谷正雄
松坂訓子　永田武夫　北村しづえ
小谷　博　宮井　滋　松村盛義
林　政三　秋元信子　玉田　公
熊田洋子　荻津　実　大石　勝
大石道子　今井敏雄　西川良一
篠久正一　円山義尚　笹山慶一郎
石田敏喜　藤田洋史　島津美代子
竹島滋泰　斎藤正明　梶川百合子
菱田　理　木村　利　谷口とも子
上野陽子　藤原守二　昆布谷和子
服部明子　西村宣行　奥野太一郎
広瀬　治　大畑惠治　中島ミツエ
天野愼一　天野幸子　小笠原忠司
長船　進　長船京子　長谷川　環
園田秀穂　吉藤辰次　吉條順子
松田牧子　川添啓弘　加古田吉廣
柏野　満　松本　博　久保田順一
松下　武　菅沼喜隆　山家尚子
佐藤敦男　奥田明弘　菅沼早苗
伊藤幸正　北野裕子（940まで）